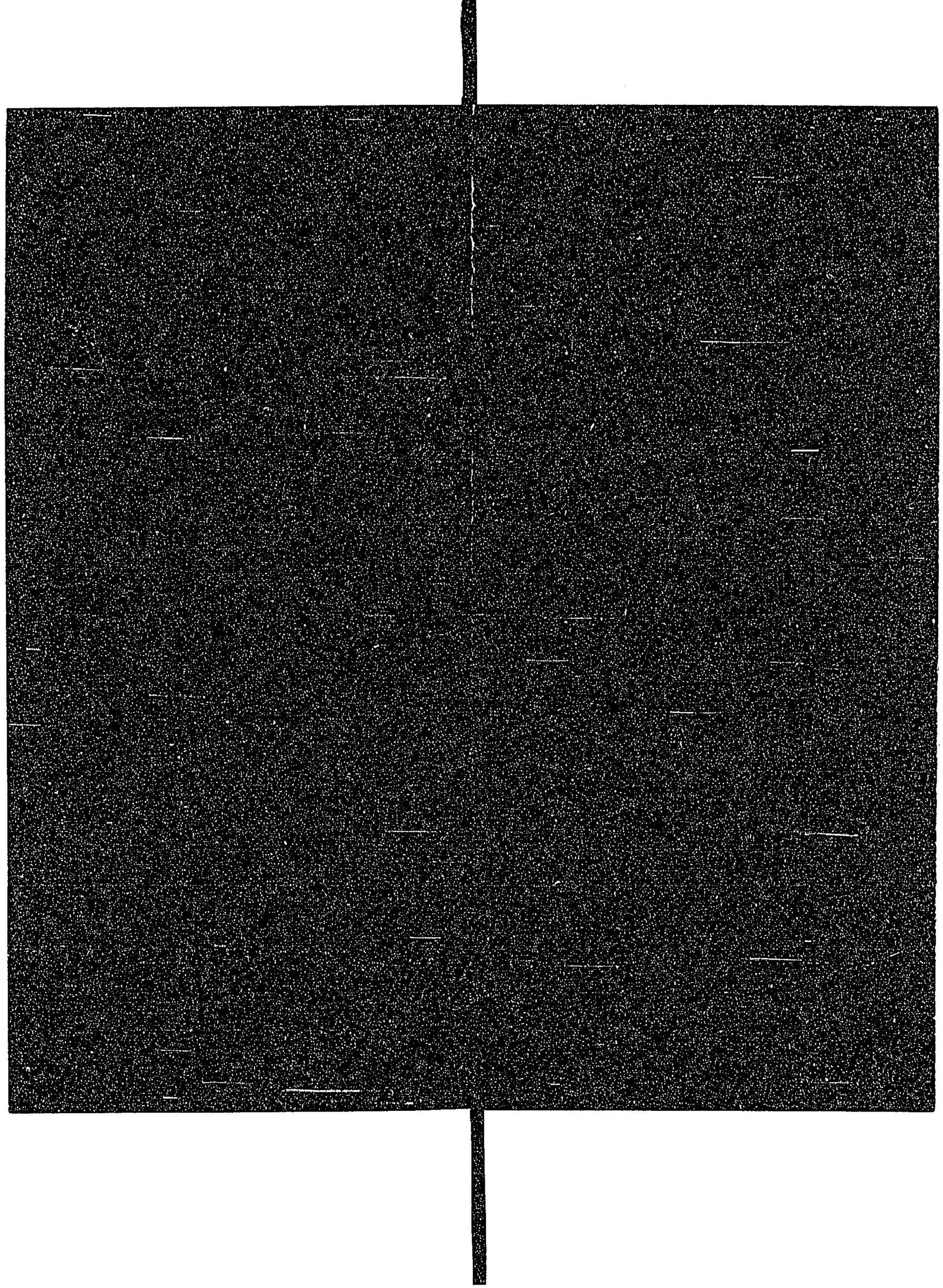
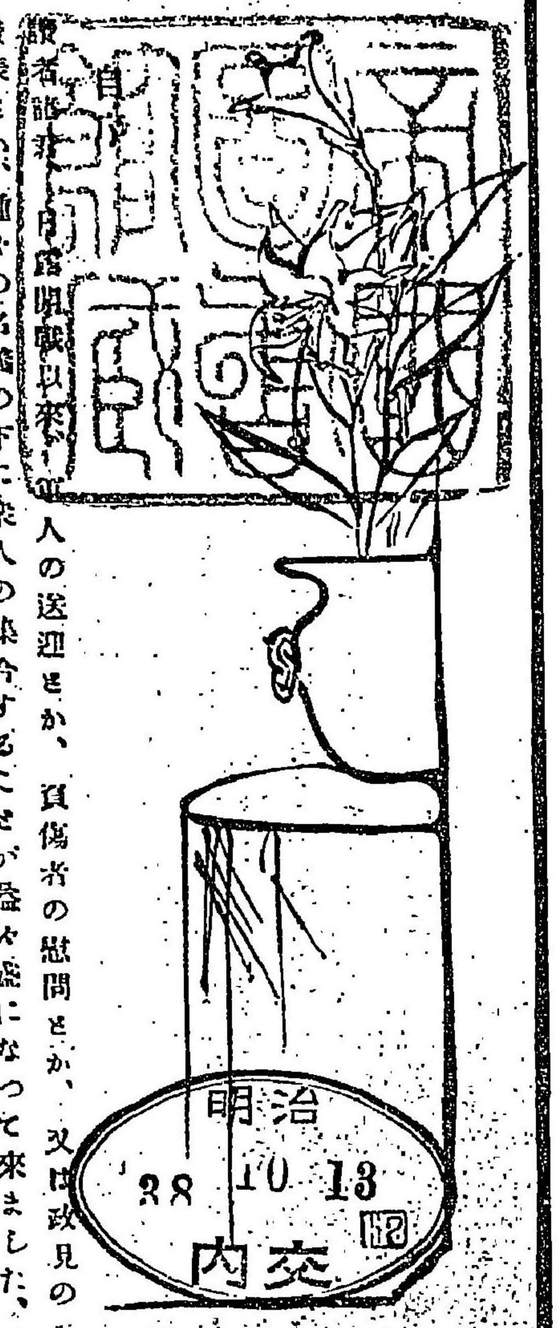
221
917

兵事學術演說

附 俗語資料



特30
329



明治
38 10 13
内交

讀者諸君、自露唱歌以來、[illegible]人の送迎とか、負傷者の慰問とか、又は政見の發表とか、種々の名義の下に衆人の集合することが益々盛になつて來ました、而して其會にては發起人とか幹事とか或は首唱者とか名の付く人は勿論、其他の人に於ても交際場裏に名を知られんとする人、又は夫等の望なき人にても或は祝するとか或は意見を叙ぶるとか、必ず之れが演說をなすことは諸君も既に御承知の事と考へます、偖演說は何の爲めにするかと云ふに、其目的

も種々あります、然れども要するに聽衆をして感動せしめねば其目的を達することが出來ない、彼の政黨員などが吾黨の爲に口角泡を飛し熱心に演說するも、聽衆が感動しない時には何の効能もない、夫故此演說と云ふものは容易なやうでも中々むづかしい、其れ故に公衆の中に起つて一場の演說でも試みやうと思はるゝ諸君は常に之れに習熟しなければならぬ、西洋には(レトリック)と云つて辭を修むる學問がある、之れに依つて即ち稽古をする、我國にても一定不動の詞がある旨く之れを用ひて已が所思を叙べ、聽衆を感動せしむることが習熟したならば左程むつかしいものでもない、即吾會の本書を編して普く世に公にせし所以のものは實に此所に在るのであります、夫故演說でもしやうと思はるゝ諸君は、常に之れを稽いて習熟したならば立派に演說することの出來得るやうになることであらうと考へます、依て本書編纂の意を述べて讀者諸君の清聽を煩はしました所以で有ります、

明治乙巳初秋　　皓々たる桂月天に流るゝの夕

編者演

○入營兵士送別會の演說……一
○海兵團へ入營兵士送別會の演說……二六
○海軍兵士送別會の答辭……三五
○兵士送迎會の演說……四五
○祝捷會首唱者の演說(海軍)……五二
○首唱者開會の演說(入營兵士送別會に於て)……六八
○入營兵士送別會の答演說……七三
○歸鄉兵慰勞會の演說……八八
○歸鄉兵慰勞會の答演說……一〇三

○新兵慰親會の演說（同窓會の演說も之に同じ）……一二三
○同　首唱者開會の演說……一二〇
○同　首唱者答演說……一二三
○凱旋兵歡迎會の演說……一二四
○夜學開會の演說……一二八
○同　閉會の演說……一三四
○算術研究會設立の演說……一三五
○開店祝ひの演說……一三八
○同窓會の演說……一四〇
○青年倶樂部發會式の演說……一四二

○友人の出京を送る演說（送別會）……一四六
○國民大に發展せよ（青年會に於て）……一四八
○國家の危急旦夕に迫れり……一五一
○シーザーの殺害に就きて……一五五
○米國と戰爭に就きての演說……一六〇
○宗教改革を上帝に祈る……一七〇
○僧侶に就きての演說……一七三
○塾生に告ぐるの演說……一八四
○首唱者開會の演說……一八九
○出征兵士送別會の演說……一九三

○同　首唱者開會の演說……一九七
○戰死者へ對する演說……一九九
○修辭資料は各題に附す

目次終

巽青年會編纂

兵事學術 演說例題

附修辭資料

○入營兵士送別會の演說

忠勇義烈の御思想に富める所の近藤樣が近々入營せんと致しますに依て茲に送別の宴會を開かれ我輩も其の席末に列する光榮を得たれば聊か一言を呈して以て近藤樣の目出度首途を送らんと致します(謹聽君子は人を送るに言を以てし小人は人を送るに財を以てすと古人は申されました、我輩は君子にあらず見る通りの人物でありますが乍去ら今や君子の類に倣て近藤樣を送るに言を以てせんと致します

抑も我が帝國が近々三四十年の短日月を以て勃然として頭角を五大洲の上へ擡げ出し五大洲の人士をして一驚を喫せしめたる所以のものは抑も何に由るのでせう、何等の原因に基くのでせう、之れには種々の原因がある事でせうが兵士その者の力換言すれば武士道の一大飛躍、一大發展を爲したるに起因すと云へることは我輩の熱心唱道する所で有て此点に付ては滿場諸君もノーの一聲を發することは無いのでせう否恐らくは我輩と同感なるのでせう（同感〳〵〳〵）嗚呼我國の勃興は兵士の力です、軍人の力です、武士的勢力の大發展を爲したのです一戰して台灣を伐ち再戰して支那を伐ち三戰して露國を伐て其の陸軍を滅茶〳〵にし其の海軍を滅茶〳〵にし一躍して東

洋否世界の大舞臺へ躍り出でたのであります、宜なるかな世界の人士が喫驚し五大洲の耳目を聳破せしことは（ヒヤ〳〵大ヒヤ〳〵）夫れ近々三四十年の短日月を以て斯る活動を爲したる國がありませうか、斯る活潑なる擧動を爲したる國がありませう、斯る大飛躍を爲したる國家がありませうか我輩は無しと云ふに躊躇せんのです之れ慾目で云ふのでもなく針小棒大に事實を誇張して云ふでゞなく有体に云ふのです正直正味の所を云ふのです（最も〳〵實地だ〳〵〳〵）斯く說き去り說き來たッたならば兵士の國家に於て大切である、兵士の國家に於て尊ふべき者であると云ふことは最早我輩の喋々を待たず諸君の既に知らるゝ所でありませう是を以て我輩は兵士を尊び

す、兵士を大切に思ふのです、請ふ近藤君よ今後國家の爲めに御身を大切になさると共に天晴功名を御顯して目出度錦衣御歸郷せられんことを（ヒヤ〳〵大ヒヤ〳〵〳〵）

資料

武藤君の送別會に望み是非告別の辞を演べんと致しますけれど如何せん素より淺學短才の私ですから之と云ふことも出來ません乍去ら此帶を空しく辞せんも多年の交誼上如何と考へられますから不肖を顧みず一言以て其意を寒ぐと同時に其の目出度首途を送らんと致します○余が最も親愛する所の宵木君と近日手を別つに忍びません實に親戚に別れ兩親に離れんよりも尚一層痛しき心地が致します○乍併ら之れ國家の公務ですか余は敢て女々しき涙を注がんで却て大に喜ばしく感ずるのであります○本日は之れ加藤君が蹶起一番劍を提げて第三十四聯隊に入隊せんとして其れを送らんが爲め聊か祖道の小宴を開いたのであります

○同　其二

余が親愛する所の久保島君が近日第二師團に入隊せんとするを以て是非告別の辞を演べんと致しますけれど如何せん素より淺學短才の私ですから之と云ふことも出來ません乍去此席を空しく辞せんも多年の友誼上如何かと考へられますから不肖を顧みず一言以て其の責を塞ぐと同時に其の目出度首途を送らんと致します今や我國連戰連勝、國光堂々として恰も東天に昇る朝日の如く古より未だ嘗て有らざる盛況を呈しつゝありと雖も決して油斷のならんのです（然り〳〵）

決して安心し居られんので若し一たび安心し油斷したならば如何ん、是ゞ社會の進潮に壓倒せられ歐米の勢力に押倒されて所謂百日の說法屁一つと云ふが如き有樣に立至らんことは余輩の喋々を待たず賢明なる諸君殊に久保島君の能く御承知せらるゝ所でせう、デすから飽まで油斷せず安心せず愈々益々國運の增進に力を注がんければなりません(同感〳〵)其の方法如何と云へば余の斷言す、飽まで武備を擴張せんと、兵士の士氣を勃發せんと、兵士その者の勢力を宇內の表に押及ぼさんと、諸君此言を以て靑樓一夜採るに足らざる快と する勿れ、痴人夢を說くの類で一顧の價なしとする勿れ其れ軍旗の臨む處は國力の發展する所なりとの格言あるに非ずや軍艦の到る處

の港灣は自然其の勢力範圍に歸し易しとの金言あるに非ずや果して然らば商業なり工業なり輸出貿易なり皆兵の力を藉らんければなりません兵士の力を仰がんければなりません諸君の知らるゝ如く太陽其の領地に沒するを得ずとの英國の大を致せしも要するに兵の力に因たのです軍旗之が先導を爲したのです嗚呼平和の戰爭にも兵士は必要です國力發展にも兵士は必要です國光增進にも兵士は必要であると知たならば豈久保島君の送別の此席に於て一言なくして可ならんやです(然り〳〵大に然り)久保島君よ、君、入隊したらんには國に忠勤を盡せし祖先の名譽を益々擴張し、增大にして以て我が豊榮昇る大日本帝國を泰山の安きに置れんことを之れ羣余の平生の願ひにし

て特に愛國の思想に富める所の久保島君に向て望みを囑するのであります（此時滿場破るゝが如く、拍手喝采す）

資料

熟々今度の形勢を考一考するに我が帝國の責任は甚だ重く且大なるのです

○朝鮮を救ひ支那を助け程能く之を導かんければなりませんのみならず、孫て露國の復讐的野心に備へんければなりません○此等の責任一に帝國に繫て居て兵士の雙肩に存するのです○夫れ亞細亞大陸を九地の下より九天の上へ救ひ上るのも我が帝國です亦亞細亞大陸を九天の上より落して九地の下に沈ますのも我が帝國です亞細亞大陸の興亡盛衰の鍵は一に我が帝國の握て居る所で有れば其の光榮の大なると共に其の責任の重きも辭することは出來んのです○競爭場裡に立て國家を永久に維持せんとすれば須らく鉄血政策を用ゐんければなりません、兵士を發成して國礎の健全を圖らんければなりません

○同　其三

愛國の精神に富める者は誰でせう忠勇の思想に富める者は誰でせう私は飽まで野間君であると信ずるのですソは野間君は國あるを知て身あるを知らず進むを知て退くを知らざる當世得易からざる我黨の血性男子であるを以ていゝす（ヒャ〳〵）我黨より斯の如き血性男子が不日入隊せんとするは實に我黨の名譽です我黨の名譽に止らず我が村内の名譽で有て將來我が帝國の軍籍上に一大異彩を煥發せん者は必ず野間に在りと余輩は絶叫するに躊躇せんのです（然り〳〵大に然り）

野間君よ、野間君、君入隊したる曉には益々平素の忠勇を御揮ひ屈せず撓まず其の手腕を鍛へたる上に若しも國交斷絶ハ干戈茲に相見ゆるの時期に際會したらんには刀で斬るべし太平洋、靴で蹴るべし烏拉山、以て帝國々旗を翩々と宇内の表に飜して帝國の國運を彌が上に彌高く增進し擴大にせられんことを尙終りに臨み一言を呈せんとするは他なし追々寒天の時候に向はんとすれば國家の爲に只管御身を珍重御自愛せられんことを是れ君の行くに臨みて余の特に希ふ所であります(ヒヤ〳〵大ヒヤ〳〵〳〵)

首送を送る數多の我等　往くも殘るも心は同じ
いざ行きませ益荒猛雄よ　天地も動搖む萬歲聲裡

送別の歌)

赤き、絮無數の旌旗　建つる軍功を祈らん章
いざ行きませ益荒猛雄よ　祝へつ唱ふ軍歌聲裡
海山通す幾多の滿車　走る猛武の心の響き
いざ行きませ益荒猛雄よ　今ぞ別れん滿笛聲裡」

○同　其四(青年會に於て)

本會は之れ如何なる會でありませう他なし、我が親愛する所の田島君が蹶起一番劍を提げて第八師團に入隊せんとする其れを送らんが爲めに開きたる送別の會であります、我々は多謝す田島君に向て……

……田島君は我々に代て今回兵士に行くのですから、我々に代て國家

の最大義務を荷うて國家鎮護の爲めに行くのですから之れ我々が田島君に向て篤く感謝せんければならんのです（同感〳〵）抑も我が青年連中で志氣の健固なる、學力の優等なる、勤務に熱誠なる者は誰であるかと問へば余は必ず田島君であると絶叫するに憚らんのです否余のみにあらず恐らく滿場諸君も御同感のことでせう（同感〳〵大同感だ）此を以て余は田島君に向て何も申しません否申さんのではありませんが……申すべき材料なきを如何せん所謂釋迦に説法の如きを如何せん孔子に向て仁義を説くが如きを如何せん我輩の云はんとする所は田島君の百も承知二百も合点三百は胸の中に在りて要するに蛇足の譏を免れんのであります デすから余は田島君に向て唯だ

御身を大切に、國家の爲めに御身を大切にと繰返すに止めるのです、請ふ田島君よ、此語を以て無意味と爲す勿れ、平々凡々と爲す勿れ、我輩愚鈍の言と爲す勿れコハ甚だ意味深長の語であればなり、古より身体の有ての物種と謂るゝのではありませんか、身体が無くては何事を爲さんとしても爲すことは出來ません、請ふ事實を擧げて之を證せんか夫れ不世出の豪傑豎太閤が朝鮮を征伐して支那四百余州の帝王とならんとして成らなかッたのは何であるか、アレキサンドル大王が世界を一統せんとして一統することの出來なかッたのは何であるか他なし、之れ天年を藉さず中道にして斃れたるに因るのであります若しもアレキサンドルに天年を藉したならば思ふ通り世界

を一統したかも知れません若しも豐太閤が身体が有たならば支那四百余州の帝王と爲たかも知れませんが、彼等は身体が亡くなッたから如何ともすることを得ず空しく怨みを呑んで九泉の客となッたのであります之に由て之を觀れば身体ほど大切のものはありません、身体ほど貴重の物はありませんから請ふ田島君偏に御身を大切にせられんことを、御身を大切にしたる上に國家の義務を貫徹し錦衣歸郷目出度復た祝ひの杯を此の席上で擧げられんことを之れ余の田島君に向て望む所であります(ヒヤ〳〵大ヒヤ〳〵)

資料

今や我國連戰連勝を以て國運未曾有の盛況を呈しつゝありと云へ乍去ら之を可いと花に戯れ月に醉ひ太平樂を定め込んで居る時ではありません「治

に居て乱を忘れず」との格言を實踐躬行せんければなりません○」要するに今日將來とも兵士の力を籍んければなりません兵士を重んぜんければなりません○之れ兵力の肩を持ち兵士にオベッカを呈する者との攻撃を恐らくは或る一部のより受くるかも知れませんけれど、決して兵士にオベッカを呈するのでもなく兵士の肩を持つのでもなく實際ソーであるを如何せん

○同　其五（近衛兵を送る）

愛國の精神に富める所の石田様の近衛に入隊せんとするに就き多年の交際上不肖を顧みず以て一言せんと致します、我々の申す迄もなく近衛は天皇陛下のお膝下に在て天皇陛下を守護し奉る最も名譽ある兵士であります、デすから誰でも成れると云ふ譯には行ません、

いくら爲りたいと願た所が其の資格がなくては駄目です、資格とは何ぞ、現に石田樣が其の資格の好摸範であります諸君も知らるゝ通り石田樣は品行方正で有て、學力優等で有て、身体健全の上に燃ゆるが如き義勇奉公の熱誠を有して何事に就けても一歩も人に後れを取らざることは諸君の業に既に知らるゝ所で有て我輩の常に敬服しつゝある所です(然り〳〵)石田樣の名譽、石田樣の今回近衛兵に撰抜せられたるも決して偶然ではありませんソは平素のお心懸の善いのです嗚呼全國兵士多し、適齢合格の兵士甚だ多しとは云へ而も近衛の兵と爲り天皇陛下のお膝下に在て天皇陛下を守護し奉る兵士は僅です、僅々指折り數ふ程しかありませんソは撰り抜きの兵ですから……

……多數の兵士中より一々撰り抜いて採用する兵士ですから……今石田樣は此の最大なる名譽を荷うて目出度首途に臨まんと致します、請ふ石田樣、入隊の後は申す迄もなく益々貴下の特色を發揮して全國兵士中の摸範たる近衛の職責に恥ぢず益々光輝を軍人社會に宣耀せられんことを今や別に臨み敬で貴下の健康を祝すると同時に併て將來の名譽と福祉とを祈ります(ヒヤ〳〵大ヒヤ〳〵)

熟語

宣耀 ノベカヾヤカス　福祉 サロハヒ　職責 シトクセキツトメ　伎倆 ウデマヒ　特色 スグレシゲイ
撰抜 エラビヌク　熱誠 ネツシン　健全 タツシヤ　敬服 カンシン　摸範 テホン
愚鈍 オロカ　貫徹 クワンテツヲヌク　一統 多クノモノヲ一ニスル　優等 スグレル　血性男子 サカンナ男
感謝 お禮　鎮護 シヅメ守ル　蹶起 ケタテオコル　聲裡 聲ノウチ　實踐躬行 ツツチニフミ行フ

干戈（イクサ）擴大（ヒロメル）躊躇（クズ〳〵スル）未曾有（イマダナイ）豐太閤（羽柴秀吉ノ）

○同　其六（騎兵を送る）

意氣揚々駿馬に鞭て不日第一師團に入らんとする者は誰であるか之ぞ我郷の勇士山田君です、山田君の入隊せんとするに先ち茲に送別の宴を開き余輩も其の席末に列するの光榮を得たれば如何か一言なくして可ならんやです夫れ騎兵の任務の重きことは言ふ迄もなく、傳令に追擊に偵察に多くの方面に向て最も重き任務を務むるのですシテ傳令一たび其要を得ざるときは如何ん勝敗の數は忽ち全軍に及ぼして鬪らざるの大失敗を取ると同時に亦其要を得るときは意外の

大功を收むることもあるのです之を以て性質愚鈍の者は此の任に堪へんのです、性質怯懦の者も此任に堪へんのです、所が山田君は今回此任に當たりましたれば其の機敏に勇敢に怜悧の品質を具へて居ることは言はずして明かなるのです（然り〳〵說き得て盡せり）君入隊の後妖氣東洋の天地を壓して來ることあらば鐵蹄胡沙を蹴てシベリアの原草を蹂躙り三尺の秋水にコザック兵を撫斬りにし以て豐榮昇る旭日章の紅旗を烏拉の絕頂に飜されんことを之れ余の特に君に向て望みを寄する所であります（ヒヤ〳〵大ヒヤ〳〵）

花の都の賑落の　風暖かき三月や　それに引返へ北韓の
春とは云へど名のみなる　殘雪白き定州の　城壁近く敵情を

偵察せんと斥候隊　進む騎兵の勇ましや」　見渡す限り野も山も
一つに暗き曉の　行手を急ぐ斥候隊　駒の足掻を速めつ
幾里の道や駈つらん　日頃鍊へし鐵石の　腕試さんも程近し
進む騎兵の勇ましや」　駒は千里の逸物ぞ　兵は全國摸範なり

（騎兵の歌）

胸には緋色のエポロット　日本刀を拔きつれて
八枚柏車のちり〳〵と　西のズボン茄黄筋　進む騎兵の勇ましや」
軍の耳目と名を負へる　敵を蹴立てん其の威風　彼等コザック勇猛の
名はありとても何ならじ　任務は重し身は輕し　早や定州は眼のあたり
いでや處穴に入らんかな　天明け此處に六時間　待ち設けたるコザックの
チーンツキーの一聯隊　進む騎兵の勇ましや」　城壁栖に打出だす
彈は霰か將た雨か　此處を死守せん覺悟とて　敵の主力を究めんと
飛び來る中を斥候隊　進む騎兵の勇ましや」　忠勇無雙の將卒は　赤き心の血に染みつ
折しも後援軍來り　一度に開く我が銃火　勢ひ猛く敵兵を
敗りて乘取る定州城　逃るを追うて勝鬨を　あぐる騎兵の勇ましや

○同　其七（志願兵を送る）

余は今回入隊せんとする鈴木君に向て一種特別の感を抱いて居ります、ソは鈴木君の尋常一般の兵士にあらざるを以てゞす、或る一部の人の最も厭がる所の兵役を自ら進んで志願し以て我々の爲め國防の任に當らんとするを以てゞす「同感〳〵」夫れ兵士の職たるや生還を期する譯にはゆきません霰と飛び來る彈丸の中に踏み込まんけれ

ばなりません劍の山血の池を渉らんければなりません(然り〳〵大に然り)最も之は戰時の場合で有て普通の場合ではありませんけれども兵士は何時も斯る場合に臨む者と覺悟し居らんければなりません宜なる哉人の之を厭かりて當籤せしにも拘らず種々の手段を講じて之を避け樣とすることは……所が鈴木君は如何でせう、鈴木君の精神は如何でせう實に此輩とは雲泥の差ありて此輩をして慚愧々死せしめんとする燃るが如き義勇奉公の精神があります報國盡忠の思想があります五尺の身体渾て是れ忠義を以て滿たされて居ると謂ても敢て過言ではありますまい(尤も〳〵過言でない〳〵)然らざれば寧んぞ九死の中に一生を得んとする兵士の職に志願しませうや敵の矢彈

を的に受けて進まんとする危き場合の軍人の職に志願しませうや(同感〳〵天晴〳〵〳〵)之れ余が特種の感を抱く所以で有て鈴木君の如き熱心なる盡忠報國の士が我が村内より出でたるかと思へば余は實に我が村内の爲め否帝國軍人社會の爲に雙手を擧げて萬歳を三呼せんければなりません茲に敬で鈴木君の目出度首途に對して祝の杯を擧ると同時に猶將來の名譽と健康とを祈て措んのであります(ヒヤ〳〵大ヒヤ〳〵〳〵)

○同　其八(一年志願兵を送る)

初め日露干戈の間に相見えんとするや各國擧て我國の地位を危ぶま

ざるはなかッたのです曰く日本人は短小である日本國は小なること豆粒の如くであると其の外人の評論の喧すしきことは扨置くとして露人すら甚だ輕蔑して彼れ能く何をかせんと指尖に小き一の塵を置き之を吹き飛ばして曰く日本を斃すことは斯樣で有て甚だ容易な所爲であると(露助イバッタな)所が其の結果は如何でせう、世界一等の最强國と我も言ひ人も許し居たる彼れ露國の戰爭の結果は如何でせう百戰百敗海に陸に唯だの一度も勝たことはありませんでマカロフは戰沒しロヂエストウエンスキー提督は捕虜と爲りアレキシーフは遁走しクロパトキンは連敗して吐息たらく策の出づる所を知らざれば世界の評論は一變せり世界の耳目は驚異と聳動とに滿たされて此に初めて日本帝國の武勳を激賞すると同時に露國の無能、野蠻、沒人情を攻擊百端せざるなく而して露國その物も以前の勇氣は何處へやらで顏色青くなり亦忽ち赤くなり恰も七面鳥の如くなッたのであります(ヒヤ〳〵大ヒヤ〳〵)實に愉快ではありませんか小氣味よき至りではありませんか要するに之れ兵の力です笹野君の如き一年志願兵等がドシ〳〵出願して良き將校となッたお蔭です、良き將校の指揮の下に忠勇無双の兵士が働いた結果であります(說き得て盡せり)今や優勝劣敗の時勢で弱肉强食の時代であれば縱令ひ露國に打勝たとて決して油斷は出來ません安心することは出來んのです、去れば勝た上にも猶用心して武備は一日も弛ぶることは出來ません否益々擴充せん

ければなりません(同感〳〵)此時に當て學力ある才藝ある義勇奉公の精神に最も熱心なる笹野君の出願するを我々見るに至ては實に欣喜に堪へんのです笹野君の出願は恰も一強國の助を得たる心地して其の人意を強ふすること幾許ぞ、請ふ笹野君よ國家の爲に一に其身を珍重御自愛せられんことを(ヒヤ〳〵大ヒヤ〳〵)

○海兵團へ入營の兵士送別會の演說

太陽其の領土に沒するを得ずと云へる世界第一の大版圖を有して居る國は何處でせう、問はでも知れた英國でせう、英國が斯く廣大なる版圖を有するに至りたる原因は諸君も知らるゝ通りネルソンが西

班牙と佛蘭西との聯合艦隊を打破て世界の海上權を得てから斯る盛大の國運に立ち至たのであります(然り〳〵)果して然らば海上權を得る者は國運隆盛となり海上權を得ざる者は國運振ふを得ずと云へるも敢て誣言ではありますまい況んや貿易交通の頻繁なる今日に於てをやです(同感〳〵)然り、其の海上權を得んとするには如何他なし海軍を盛にするより外はありません國民をドシ〳〵海軍兵士とするより他に良法はないのです(然り〳〵大に然り)此時に當り海軍熱心者の大野君が不日横須賀海兵團に入らんとするを聞いて余輩は實に喜びに堪へんのであります諸君も知らるゝ通り大野君は膽力あり識量あり其の海軍の事に至ては常に之を言語上に發し或は人の海軍の事情

を說く者あれば耳を傾けて之を聽き殆んど眠食を忘れんとする境に立ち至れることは敢て珍しからずです(尤も〳〵其通り〳〵)斯くの如き人が今回海軍に入るとは能く其望む所に適合して大野君の宿志、伎倆、光彩、今後大に煥發する所あるや誰か亦疑はんやです、余は大野君その人の如き者が續々出でゝ海軍に力を盡し早く海上權を占領して我が帝國をして第二の英國たらしめんことを望むや切なるのであります嗚呼大野君、君未た春秋若く前途多望海の如くであれば益〳〵平素の志氣を伸張すると同時に其技を磨き其膽を練り獨りネルソン其人をして英名を擅にせしめざらんことを、一言以て大野君の目出度首途を送ると同時に其の健康と名譽とを謹で祈るのであります

(ヒヤ〳〵大ヒヤ〳〵)

○同　其二(志願兵を送る)

若し人あり海軍陸軍何れか重きと問はゞ余は殆んど其の答辯に苦むのでありますが帝國の前途に向ては余は海軍の必要であると云ふに憚らんのであります(同感〳〵)ソは云ふまでもなく我國は四面海を以て繞らして居るを以てゞす丁度粟粒の一が大海中に浮んで居るが如く西へも東にも行かんとするには海を渡らんければなりません南へも北へも出懸んとするには舟に便るより外はありませんと同時に敵國の襲ひ來るにも海よりし敵國の追擊し來たるにも海上よりし而

して之を第一着に撃破するものは海軍です、海軍が功を奏せんときは百萬の陸軍ありと雖も手も足も出すことの出來んのです(然り〳〵其說尤も然り)空しくジダンダ踏んで國内に滿ち居るより外は仕方ないのです、斯く說き來たッたならば誰も海軍の必要を首肯するのでせう海軍の重きを絶叫するのでせう(其言最も然り)山本君茲に見る所あり挺身志願して不日吳海軍團に入らんとす余輩その壯擧を聞いて大に先見の明あるに感じ其の意氣の旺なるを欣び聊か送別の宴を開いて其の芽出度發途を送らんと致します嗚呼山本君の前途を想望すれば其の苦難は如何ん其の辛酸は如何ん海上萬里を漕ぎ渡る中には狂瀾怒濤と戰はざるを得ず暴風と海若爭はざるを得ず或は檣の折るゝ

こともあらん或は艦の覆んこともあらん乍併山本君は此等に決して畏るゝ者ではありません此等に決して撓む者ではありません浩氣の溢るゝ所暴風を突破し怒濤を蹴破り海若を叱咤して大海を見ることの如く能く我が海軍の勢力を增進して國家に貢献する所あるや坦途余輩の確信して疑がはざる所であります(同感〳〵)往け山本君、君の宿志の達せんも此の一擧にあり余輩は其の光輝ある名譽の一日も早く我が海軍部内に發せられんことを朝夕祈て居る者であります

(ヒヤ〳〵大ヒヤ〳〵)

○同　其三

我が親愛する所の鳥居君が近日舞鶴海兵團に入らんとし茲に知己朋友相會して離杯の小宴を開き余輩も其の席末に列する光榮を得たれば一言以て鳥居君の勇ましき首途を送らんと致します却説東郷艦隊が首尾能くバルチック艦隊を日本海に於てメッチヤ、メチヤに粉ち倒して露國の心膽を寒からしめたる今日とは云へ日本は決して威張る譯には行きません否益々緊褌一番して飽まで海軍を盛大にし以て東洋の英國たる地位にまで其力を張らんければなりません之れ我々の喋々を待たず鳥居君の夙に御存なるのです嗚呼、余、鳥居君と別れて今後誰と共にか語り誰と共にか談せん恰も赤子の慈母の懷を放れたるが如く盲人の杖を奪はれて路頭に彷徨するが如きであります、

ダが余は悲みません、余は悲哀の涙を袖を絞りません、と云ふものは之れ鳥居君は國家の爲に行くのでありますから、國家の爲に其身を犧牲に供しても我が海軍を盛大にして我が國力を強大にして露國は勿論、英國の海軍たりとも後に瞠若せんものとの抱負、期望を持して行くのでありますから……何と勇壯ではありませんか天晴なる出立ちではありませんか、故に余は悲みどころでなく大に喜びの杯を擧げて鳥居君の爲めに萬歲を連呼せんとするのであります(同感〳〵大に同感だ)最早時候も迫々寒天に向ひつゝあれば鳥居君よ、偏に國家の爲に珍重御自愛せられんことを希ひます(拍手霰の如く滿場を動かす)

狂瀾怒濤も何のその　烈風海風も事やある　海國男子の本領を

現すべきは此時ぞ　進めや進め期望まで
天柱くじけ地軸折るも　是れを終らん其れ迄は」　猛り狂へる荒波に
舷碎け帆奪はるも　我が漕く擢の音は止まじ　海原ひろく有る迄は
風を劈く風の音は　我等を待遇す談話なり　舷碎く波の音は
我等る勞る樂みぞ　漕げや漕げ〳〵諸共に　行けや行け〳〵波の上
海原我等が國なるぞ　漕げや漕げ〳〵諸共に　海原男子と心して
（海軍）
我が日の本を諸共に　激浪我等が家なるぞ　海原廣くあるまでは」
銀へや銀へ此の腕を　輝く光が殘せかし　爲に盡くさん此の腕が
風吹き荒ぶ朝にも　いざ事あらば國民の
波立ち荒るゝ夕にも　ボートの楯に身を固め　銀へや銀へ此の腕を
あらぶる涙の荒るゝにも　オールの槍を手にとりて　銀へや銀へ此の腕を
ふく雪風の早くも　大平洋上に鄰ける

（歌）
日の出の國の海兵が　いかで恐るゝ事あらん　波路は我等の家なるぞ
暴風は我等が友なるぞ　唯コワクスの號令に　力を合せ氣を合せ
脇目もふらず漕にこげ　心を一に錬りに練れ　汝の腕を銀へなば
一時の勝は愚なり　八州の浦に澄む月の　八千代をかけて光るかと
譽は長く流るらん」　汝の持てる勇氣とを　汝の持てる眞心と
汝の持てる勇氣とを　榴とも波の榴とも　學びの上のレースにも
をくれを取な後るゝな　磨きにみかけ心をば　磨きに磨く心もて
千代も八千代も動なき　御代の稜威を世に示し　御國の威光を世に揚げて
大和島根に咲く花の　八千代をかけて匂ごと　汝く名をも輝かせ

○海軍兵士送別會の答辞

不日我々が出發せんとするや親愛なる諸君は爰に送別の宴會をお開き下され且添ふるに志氣を鼓舞する悲壯淋漓たるお言葉を以て致されましたるに就ては、我々身不肖とは云へ如何ぞ感奮興起せざらんやです、實に諸君は其交る所に忠實にして其友に於て親切に且懇篤なる者と謂はざるを得んのです、今や我が帝國は無前の功を收めました、バルチック艦隊を擊滅致しました、全滅致しましてネルソン其人より、より多くの光輝ある功績を世界の戰史上へ煥發せしとは云へ乍去ら、未だ決して之で可しと安心することは出來ません、要は、露國の天子は嘗て『日本と和睦せんよりは天子の位を退く方が如しだ』と傲言致されましたから(チカ〳〵負けてもエレーことを吐かすな)之れ

我々の喋々を待んで諸君の既に知らるゝ所でありませう、デすから我々は飽まで諸君の悲壯淋漓たるお言葉を記臆し、諸君の沈痛激越なるお詞を肝銘し以て不肖の身なれども國家の爲め諸君の爲め今後其の職任の有る所を盡さんと致します、言甚だ身分不相應にて、出で過ぎた言葉とお叱りなさるお方も之れ有りませうなれども諸君の深切なる御深情、諸君の勇壯活潑なるお言葉に感激して思はず知らず此に至たのでありますれば諸君御咎め之れなく以て我々心情の在る所を御賢察あられんことを……茲に敬で滿場諸君の御厚意を伏して感謝致します(ヒヤ〳〵大ヒヤ〳〵)

資料 勝て兜の緒を緊めよ○蹈語讀みの論語知らず○人の疝氣を頭痛に病む○

細工は流々仕上を見よ○大は小を兼ぬ○大は小を兼ぬと雖も御玉杓子は
耳掻にならず

片われ月の物すごき
浜の荒磯音絶にて
闇に紛れて水雷艇
寄せては歸る浦影に
おごろ〳〵の音と共に
黒白も分かずなりにけり

嵐に落ちて露深し
千鳥も眠る丑満の
はしるは何處白波の
千曳の岩か仇船か
忽ちあがる水煙

○同　其二

謹で満場諸君の御厚意を感謝致します、不肖の我々が今回入團する
に就きまして諸君が一方ならざる御深情を御懸け下されしことを感

謝致します、今や諸君と別れんとするに臨み過去より現在の事を思
ひ出せば其の御厚恩に預りしことは如何程か分りません或は足らざ
る所をお助け下すッたり、或は及ばざる所を補ひ下すッたり、切々
偲ゝの御忠告骨肉も及ばん程でありましたるにも拘はらず今日猶又
鄭重なる御優待を蒙るに至りましては實に身に餘りての難有さお禮
の述べやうも無いのであります（辯士御謙遜は御無用〳〵）斯ゝる御方と
別るゝのは辛いのであります、斯ゝる御方と手を別つに忍びんのであ
りますが乍去ら是れ個人の所爲で有りませんで公事なれば實際己む
を得んのであります（同感〳〵）公事は辞するを得んのであります、
公事の爲には妻子を捨て老親を顧みずして進まんければなりません

(御勇壯〳〵〳〵)之れ私の私言でなく古より猶然りで有て諸君の意も恐らくは之に外ならんことと信ずるのであります(其通り〳〵〳〵)である から飽まで諸君のお心を奉體し諸君のお言葉に背かざらんことを及ばずながら今日より努めんことを期するのであります、茲に一方ならざる御厚意に感泣し、滿場諸君に對して篤く御禮を申上ぐます(ヒヤ〳〵〳〵大ヒヤ〳〵〳〵)

資料

嗚呼、蔚山沖の海戰何ぞ其れ壯なる旅順口港の封鎖何ぞ其れ烈なる余之を耳にする毎に意氣激昂すれど而も性質愚鈍なれば諸君の御厚意に負かんことを之れ恐れて已んのであります○好し性質愚鈍にありとは云へ生ある限り腕限り舊戰血闘一死以て諸君の御厚誼に報ぜんことを之を努めんとするのであります○今や別に臨んで感激措く能はず敬で奉答致します

○同　其三

蘭の如く櫻花の如き厚意厚情を以て不肖余輩を御優待致されたる滿場諸君の熱誠を謹で感謝致します、今や國家危急の際に當れば余輩不肖の者と雖も豈に安閑然として居ることが出來ませうや況んや諸君の慷慨激越の語氣を以て之を鼓舞し之を奬勵なし下さるに於てをやです嗚呼千載復となき檜舞臺の戰爭に出づるは余輩の最も光榮とする所でありまして此乎即ち國恩に報ずる秋であります(天晴〳〵〳〵)其のお言葉たるや)去れば不肖の身を戰場に擲て怨み重なる彼れ露助を打斃し以て遼東還附の恥辱を雪くと同時に帝國五千萬人の憤憤を

霧さんものと決心して居ります然して戰爭に必要なるものは何であるかと問へば金です、一にも金、二にも金、三にも金とナポレオンは申されましたが流石ナポレオンで能く其の戰爭の根元を看破したものであります實に金がなければ戰爭は出來ません換言すれば糧食です、被服です、銃器ですが之を製し拵へんとするには何れも金が先き立つのであります（ヒヤ〳〵）所で諸君は金を作る元素であります、糧食供給の淵泉でありますれば其任の重く且大なることは決して陸海勇猛の諸大將に讓らんのであります、然れば益々奮進努力して共に最後の決勝点まで突貫せられんことを希ふと同時に今日の厚意高尚を伏して滿場の諸君に向て感謝致します（ヒヤ〳〵大ヒヤ〳〵）

〳〵

資料

○盃一つ貞女の帶を解したり○唐辛は小粒でも辛し○大男、惣身に智恵が廻り兼ぬ○醫者の不養生○陰陽師、身の上知らず○鹿を追ふもの山を見ず○爪の光で火をともす○爪で拾て箕で溢す○孝行前に立たず○死んでの孝行〳〵

○同　其四

親愛する所の知己朋友併て滿場の諸君に向て感謝致します我々は身の不才なるにも拘らず諸君が斯くも盛大なる送別の宴を御開き下されし其の花あり實ある御心情の程を感謝致します、却説前申す通り我々は不才です、無學です、換言すれば無學文盲、明き盲同然採る

に足らざる人物です、獨活的人物であるにも拘らず諸君が斯くも御丁寧に御優待なし下さる其の原因は抑も何に因るのでせう、畢竟するに之れ諸君が兵士を重んずる所以でありませう　兵士は國家の干城、護國の根元であると確信致さるゝからであります、所が我々は護國の根元でもなく國家の干城でもなく唯だ空らん名を軍籍に上る斗りて却て軍籍の名譽を瀆すに止て居るのであります（ノー〳〵辨士謙遜する勿れ〳〵）所が諸君の御厚意一に此に至れるかと思へば我々は感喜交々臻て謝する所を知らんのであります、難有さと恥しさと一時に胸中に湧き來て如何に言葉を述べて可いやら言葉を述べ方に苦しむのであります（辯士益々謙遜する勿れ）唯た今後は難有き諸君の御心

情と諸君のお言葉とを眷々服膺し以て其の職責に辜負せらんことを期するのであります（其言尤も感服〳〵）謹で今回の御厚意を親愛する所の知己朋友併て滿場諸君に向て感謝すると同時に尚將來御見棄なく今日此席の如き熱き御心情を懸けられんことと伏してお願ひ申します

（ヒヤ〳〵大ヒヤ〳〵〳〵）

○兵士送迎會の演說

忠義骨髓を愼むる所の我鄕兵士諸君の送迎會を茲に開くに際し不肖余輩も其の席末に烈する光榮を得たれば一言以て其行く者を祝し其歸りし者を慰せんと致します嗚呼兵士の任務は重大であります、嚴

肅なる軍規の下に在て、其膽を練り其技を磨んければなりません我々は暑と云て木蔭で涼むことも出來ますが兵士は素よりソンな氣樂な事は出來ません我々は寒いと云て爐を圍んで煖まることも出來ますが兵士となつてはソンな呑氣な事は出來ません雨の降ふ日でも厭はず風の吹く朝でも屈せずひろ〳〵としたる野原へ出で稽古せんければなりません其の筋骨を鍛へんければなりません(辛苦〳〵)其れも身の爲ではありません國家の爲めであります、國家を大切に思ふからであります、國家を隆盛に導かんが爲めであります、デすから國家觀念に富む者でありませんければ到底此役には立たんのです義勇奉公心の盛んな者でなければ圓滿に其職を務むることは六ヶ敷ので

す(然り〳〵說き得て盡せり)所が諸君は此の六ヶ敷き職務を圓滿に成し遂げ、此の嚴肅なる軍規の下に在て一の干犯もなく一の懲罰もなきのみか精勤證書さへ上官より戴いて歸鄉せられしこそ之れ故鄉へ錦を飾ると云ふもので有て其の名譽も亦大なりと謂はんければなりません(ヒヤ〳〵大ヒヤ〳〵)而して今回新に入隊せんとする兵士諸君も必ず之と同じく屈せず撓まず百難を相排し萬艱を之れ凌ぎ以て我鄉の名譽を揚ると同時に其人の英名を軍籍上に煥發するに至らんことは我輩の深く信じて疑がはざる所であります爰に入隊兵士諸君の爲に將來の光榮と健康とを祈ると同時に歸鄉兵士諸君の多年國家の爲めに千辛萬苦を積み累ねたる勞を謹んで感謝致します(ヒヤ〳〵大ヒヤ

〳〵

○同　其二

諸君、國家の干城たる者は何でありませう、國民の柱石たる者は何です（ヒヤ〳〵）兵士は眞に國民の柱石であります國家の干城であることは楢家に於ては墻や壁の如きであります壁がなければ雨風を防ぐことは出來ません墻がなければ盜賊が勝手に入ると同時に兵士がなければ敵兵が矢鱈に國内に入りて我々の田地田畑を蹂躙し、我々の家屋を踏み荒らし、我々の生命財産を奪ひ、遂に其の國家をも滅茶

〳〵にするのです、デすから兵士は大切なるのです貴重なるのです（同感〳〵説き得て盡せり）今や諸君の中には目出度現役を終へて歸鄉せられし者もあれば是れより現役を務めんとして出發する者もありますが其の行くも歸るも圖家に盡すは同一で有て決して輕重を其間に挿むことは出來ません否挿む餘地のなきを如何せん（説き得て妙）唯だ余輩は感謝す、兵士があるに因て兵士諸君が千苦辞せず萬難相凌いで献身的に國家に忠勤を盡しつゝ有るに由て生命財産も奪はれず家屋も踏み荒らされず田地田畑も蹂躙せられず最も太平に最も安樂に起臥して其業を勵みつゝあることを之に由て之を觀れば兵士は國家の干城で有て國民の柱石であるとの言敢て過言ではありますまい（過言で

ない〳〵）此に熱誠を捧て兵士諸君の勞を感謝すると同時に併て將來の多福と健康とを朝に夕に祈て居るのであります（拍手喝采雷の如し）

○同　其三（首唱者開會の演說）

本日は之れ愛國の精神、義勇奉公の精神に富める所の我鄕兵士諸君の送迎の會であります御繁忙の時節にも拘らず諸君が奮て御來會下すッたのは實に本會の光榮で有て嘸かし兵士諸君も御滿足の至りであらふと信ずるのです却說我々は兵士諸君に向て感謝せんければなりません、ナゼなれば兵士諸君は大にしては國家の爲め小にしては我々國民の爲め敵の矢彈を的に受け貴重の生命を陣頭に棄てんと致

しますから……之れ兵士諸君の本領で有て日本魂實に爰に存するのです（ヒヤ〳〵）嗚呼誰か生命を惜まざらんや貴重の生命を惜まざる者なからんや乍併兵士諸君、特に此に御列席せらるゝ兵士諸君は寧ろ一身の生命を擲ても我々國民並びに國家を富岳の御きに置かんとの古の忠臣義士にも優る御勇壯、好精神があるのであります（然り、天晴〳〵）故に余は諸君の芽出度首途を送ると共に諸君が芽出度御歸鄕を祝するのであります、唯だ恐る御存の通りの片田舍で萬事意の如くならず粗酒粗肴以て名譽ある兵士諸君を犒するの禮を欠くことを併去ら諸君咎むることなく滿酌淋漓日本男子の本色を發揮し以て半日の愉快を御盡し下すッたならば會員一同の喜びは之に過ぎんの

であります爰に兵士諸君の福祉と健康とを祈ると同時に來會者諸君の御厚意を感謝致します(拍手の音、霰の如し)

○祝捷會首唱者の演說(海軍)

本日祝捷會を擧行するに際し御繁忙の時節をも顧みず諸君奮て御賛成の上御來會下さッたは本會の最も光榮とする所で有て我々首唱者が深く來會者諸君に對して感謝する所であります、却說今回の戰爭は世界未曾有の大海戰で有て而して我が帝國は世界未曾有の大捷利を博したのであります(然り〳〵)世界ヲルソンを以て海軍の月桂冠を戴かし、海軍の軍神と崇め奉りて居るのですが乍併ら、我が東郷司

令長官と比較したらんには如何でせう、我が東郷艦隊の功と比べたらんには如何でありませう我々の言ふ迄もなく諸君は必ず東郷艦隊の功が上で有て東郷司令長官の績が立ち優て居ると云ふのでせう(此時拍手大に起る)ソは國人として慾目に見たのでなく最負目に見たのでもなく正味の所へ憑直のない實際世界公衆の認めて以て許す所を云ふのです(然り〳〵)果して然らばヲルソンの月桂冠は我が東郷司令長官に渡さんければなりませんネルソンの海軍々神の尊號は我が東郷司令長官に與へんければなりません實に英國に代て今後海上王の大號と稱する者は我が帝國にして其の帝國の基礎を定めたる者は東郷司令長官其人と謂はんも敢て過言ではありますまい(過言でなし〳〵)東

鄉司令長官艦隊の勳と謂はんも敢て不可ではありますまい一念茲に至るときは歡天喜地、手の舞ひ足の踏む所を知らん程それほど愉快に嬉しく喜ばしく感ずるのであります(然り〳〵大に然り)諸君も定めて御同感の事でありませう茲に帝國勃興の隆運を祝すると同時に併て滿塲諸君の御來會の御厚意を感謝致します

○同　其二(陸軍)

南風心地よく吹き渡る時に際し此に祝捷の會を開きし所遠近の諸君奮て御光來、滿塲立錐の餘地なき盛況を呈せしは近頃稀れに見る所で有て本會の光榮此上ないのであります、時節柄多忙ですから諸君

の御光來も至て少いであらふと豫想して居た所豫想以外の盛況を呈せしは恰も今回の戰爭の樣で有て之れ我々首唱者が篤く諸君に對して感謝する所であります、實に我軍は常勝軍であります(ヒヤ〳〵)陸でも海でも勝て〳〵勝ち通しで負けたと云ふ事は少もありません百戰百勝とは我軍を眞に古人で言たのでありませう(然り〳〵)今や長春を屠り吉林を占領し軍旗直ちにシベリアを指して鐵駒朔北の野に奔騰す、此勢を以て長驅進擊したらんには、ハルビン、浦塩も何の苦もなく陷落するでせう、或は知らん今言てる中に最早や陷落したかも知れません(ヒヤ〳〵大ヒヤ〳〵〳〵)實に我兵の向ふ所前に堅城なく後に強襲なく草木風靡し山川震動し恰も無人の境を行くが如きであ

りますれば（此時拍手雷の如く起る）之を如何ぞ祝せざるを得んやです願くは諸君、滿場の諸君よ、我が陸軍の大捷を祝すると同時に帝國の隆運を祈られんことを

陸軍萬歲〳〵、帝國萬歲、萬々歲!!!

資料

獨逸皇帝、或日、一人の日本商人を引見し悠然として朕は日本陸軍の成功を祝すと宜ひたるを日本商人は恭〳〵拜伏し且滿面に笑ひをたゝへたり皇帝次いで宣まふ然れども卿等は「萬事我が獨逸より學べる事を忘るゝ勿れ」と日本商人尙微笑しつゝ答ふ誠に宜まふ通りなり余等は萬事を獨逸より然れども「露人を恐るゝ事丈は學ばざりき」と（但し獨逸皇帝及び其の國民が露人を恐れて百方阿諛を呈しつゝあるを諷せしなり）

○同　其三（會員）

爰に光榮ある祝捷會の盛典に列する我々の喜びは如何でせう歡天喜地實に手の舞ひ足の踏む所を知らんほど其れ程嬉れしく喜ばしく愉快であります（ヒヤ〳〵）夫れ我が帝國が露國に對し軍事上、海陸とも優等に位するや歷然たる事實で有て世界何人も敢て異論のないのです（然り〳〵大に然り）日本は實に戰勝國です。借問す、歐洲諸國中遙かに優大なる海軍力を有する英國の外日本が露國に對し今回勝たる結果を收め得べき者のありや否や（ない〳〵）恐らくはあらざるべし否なしと斷言するに我々は躊躇せんのであります（同感〳〵）のみならず今

回の勝利に乘じて愈々我が國運が發達して已まざらんか英國と雖も餘り遠からざる未來に於て其の後に瞠若たらざるを得んのです(今でもソーよ)今二十世紀の終らざるに先ち宇内第一等の地位を占むる者は我が帝國であると云ふことを諸君よ記憶せよ、是れ決して過言にあらず實際その通りになるのです、其の通りにせんければ我々國民はならんのです(然り〳〵其言尤も然り)デすから諸君益々奮進努力して我が國運の地位を進められんことを爰に露國の艦隊を全滅するを祝すると同時に併て望みを將來に屬して置きます(滿場拍手をもて破るゝが如し)

◎艦成微塵兵皆降

絶望朔兒涙如瀧ノ

不啻露人永戰慄ノミナ

◎春陽四月烏歌ひ
岸に汝が馬飲ばん
バイカル湖上に船浮べ
金風清き秋の夜は
ペートル帝が建てしてふ
雪踏み分けて押し進み
露人の慾も消に失せて
往け忠勇の我が兵よ

世界無復響我邦
花咲く頃は黒龍の
燃ゆる炎暑の夏來なば
世にも稀なる納涼せよ
月をウラルの山に賞で
露京の冬よ極北の
城下の響ひ迫りなば
平和は遂に復すべし
嗚呼千載の一遇ぞ

○同　其四(全上)

今や我が國威は堂々として東洋の天地を壓して歐洲列强皆震慄せざるなき光景を呈しつゝあります(然り)之れ帝國々家肇造以來の隆運で有であります否世界開闢以來類例なき隆運と申しても誰かノーの一聲を發する勇氣あらんやです(ヒヤ〳〵大ヒヤ〳〵)此の世界的隆運、此の世界的戰勝に際し我輩は實に雀躍燕舞に堪へんのです、欣喜踴躍に禁へんのです恐らくは我輩一個のみならず滯塲諸君も爾か考ふ事ならんと信ずるのです(同感〳〵〳〵)嗚呼世界戰爭なきにあらず然れど今回得たる所の我國の如き勝利はありません、世界劫興の國なきにあらず然れど一躍歐米列强間を震慄せしめたる我國の如きはありません、之れ大元帥陛下の稜威と將士の奮戰とに因ることは素よりな

りと雖も而も我々國民も與て尠からざる後援を軍隊其の物に與へたることを記臆せんければなりません(然り〳〵〳〵)換言すれば上下一致內外相應じて此の光榮と隆運とを得たるのであります果して然らば諸君益々奮起努力して以て最後の決勝点まで突進せられんことを、勝に狂れて傲ることと勿れ、勝に乘じて油斷することと勿れ、油斷は敵の乘ずる所、一旦油斷すれば千功立所に滅す故に我々は勝て兜の緒を緊めて露助の本國に向て止目を刺さんければなりません、東洋の平和を克復する迄は、文明の的を打斃す迄は猫の鼠を捕るが如く專心一意ならんければなりません(然り〳〵〳〵)連勝に次ぐに連勝を以てせんが爲に覺えず言唐突に失せしかも知れませんけれど請ふ滿

場の諸君怒せられんことを敬で本日の盛典を祝します（ヒヤ〳〵〳〵大ヒヤ〳〵〳〵

資料

露國は今後、多年間東洋海軍國の伍班に列することは出來ませんソは今回悉々く打破れたるを以てゞあります○バルチック艦隊、旅順艦隊、浦鹽艦隊悉く打破られて殘す所老朽益に立たゝざるが如き戰艦數隻に過ぎざるのです○ピートル帝が鋭意興したる露國の海軍も今回日本の艦隊にヤッツケられて支離滅裂の結果遂に全滅に歸して跡形もない樣になりました○我々は我が兵士諸君の武勇を稱賞し其の策畧の巧妙を驚嘆し以て萬歳を唱ふる者であります○露國今にして媾和するに非ずんは只だ敗衂に加ふるに敗衂を以てするに過ぎざるのみ○露國の敗衂は文明の凱旋なり迷信に惑溺するもの及び宗教の故を以て人を虚ぐるもの〻金城鐵壁を

破壞するものなれば隨て人類の自由進歩の最大障碍物の崩解し去れるものであります○日本海の海戰は世界海戰史に其の類例を見ざる偉業なりと云ふも過言にあらざるべし○露國は今度多年間東洋海軍國の伍班に列する能はざるて事となりました骨て獨逸帝をして最强國の元首として謳歌せしめたる威名赫々のニコラス二世も其の我が帝國に對し大敗を恢復する望みなき事となりました

○同　其五（仝上）

爰に目出度祝捷會を開くに際し余輩其の席末に列する光榮を得たれば如何ぞ一言なきを得んやです（謹聽〳〵）抑も日露戰爭は唯に世界列國を聳動したるのみでなく我れ自身も驚かねばならんのですソは諸

君、諸君回顧し給へ、我國の歴史に遡て見給へ、今より三四十年前は實に憐れはかなき國でありました、豆粒の大海中に漂うて居るが如き國でありました、然れば世界各國に輕蔑せられたのです、イギリスにもフランスにもドイツにもアメリカにも支那にも朝鮮にも輕蔑せられたのです(殘念でした〳〵)殊に露國の輕蔑と來ては酷いんです、寧ろ輕蔑と云はんよりは乱暴侮辱を我が國民の頭上に加へたものと謂はんければなりません(此の露助奴)所が諸君、如何でせう如何に我が國運は發達したでせう、僅々三四十年經か經ざる中に、王政を復古し、内政を改め、兵制を改革し、鎖國制度を撤去して廣く内外交通の途を開きしより朝鮮を獨立せしめて爰に我國の威信を示し、

支那を征伐して爰に我が威光を東洋へ輝かし今や世界一等の最強國と人も呼做し自も誇り居る所の露國と干戈を交へて未だ二年ならざるに一戰して旅順を破り再戰して奉天を占領し三戰してバルチック艦隊を全滅し今又長春、吉林の大捷を耳にするを得たのでありますか(然り〳〵)何と盛なものではありませんか勇ましい振舞ではありませんか(同感〳〵〳〵)此に於てか前に輕蔑したる所の獨逸は頻りに我國に向てお世辞を述立てアメリカは賞立てイギリスは感嘆し支那は我國を信頼して神の如くに崇め朝鮮は遂に我が袖の下に保護を受けつゝある樣に成て來たのであります、何と愉快ではありませんか(然り然り)嬉しく目出度國運と爲て來た次第ではありませんか世界列國が

驚き且つ羨むのも敢て無理ではありません否當然の事で有て我々自身も眞に夢かと思ふ斗りて僅か三四十年の短日月に斯も國勢進歩せんとは思はなかッたのであります（同感〳〵〳〵穿ち得て盡せり）嗚呼曩には世界の地圖より引離れて日本と云ふ國を知らん者が澤山あッたのであります、好し日本が有ると知て居たにしろ彼等は敢て我が國民を人間視せず、牛馬の如く犬猫の如くアフリカ國の黑奴の如く取扱て其の輕蔑の度も亦甚だしき者でなかく膝より上へはあげんので有りました（ソーでしたか、ソー輕蔑せられて居たのですか）所が今や如何、國光曈々として旭日の東天に昇るが如く貔貅百萬シベリアを壓して軍旗直ちに烏拉を指し露國の咽喉を扼して宇内の覇權を握らんとするが如き最も勇壯に最も活潑に最も文明に最も光輝ある盛大なる勢ひを示しつゝあるではありませんか（然り〳〵ヒヤ〳〵大ヒヤ〳〵〳〵）之れと申すも皆戰爭のお蔭です戰爭に打勝て露國の猛兵勇卒を打斃したる結果であります（然り）之れ如何ぞ祝し且つ賀せずに居られませうや我々は手の舞ひ足の踏む所を知らん程ろれ程嬉しく喜ばしく目出度感ずるのであります（同感〳〵〳〵）謹で本日の盛典を祝すると同時に益々武運の長久を祈り且つ國民の堅忍不拔の御精精のあらんことを切に望むのであります（ヒヤ〳〵大ヒヤ〳〵〳〵）

資料

此に祝捷會を開き以て哀心の歡喜を表彰すると同時に我が實業社會の氣運益々活潑の勢ひを呈し以て隆昌の大成功と光を共にせんことを祈るの

であります○我々は會員諸君益々同心協力して事に茲に從はれんことを今や熱誠に戰捷を祝すると同時に併て國民將來の期望を陳ぶ○今亦空前の大捷を得て感激抃舞の至に堪へんのであります一擧して長春、吉林の敵を破り四海の波茲に穏に浦安の國礎彌々固を加ふるに至つたのであります

○首唱者開會の演說（入營兵士送別會に於て）

時節柄御多忙なるにも拘らず諸君が奮て御來會下されしは本會の光榮とする所でありますシテ我々首唱者は厚く來會者諸君に向て其の御厚意を感謝せんければなりません却說諸君よ、吾々日本人は亞細亞洲中進步的の國民です、先導者です（ヒヤ〳〵大ヒヤ〳〵）其の先導者

の任として進步的國民の天職として支那、印度、朝鮮は勿論、其他苟くも文明の光に進むべき能力ある亞細亞各國民を指導し輔助すべき神聖なる大任を双肩に荷ひつゝあることを忘れてはなりません（尤も〳〵其言尤も然り）吾々は彼等各國民が歐羅巴人より非常なる暴戾、虐政、輕蔑、侮慢を蒙りつゝある總べての怨みと束縛とを解いてやらんければなりません、自由の民となし與へてやらんければなりません（然り〳〵）亡びし國を再興し、倒れし國民を救ひ出し以て天の福音を彼等に與へてやると同時に我が天皇陛下を亞細亞全洲の大皇帝に押進め奉らんければならんとの大抱負、大決心、大期望を有せんければなりません（ヒヤ〳〵大ヒヤ〳〵）此の期望を成し遂げんとするに

は早晩、暴戾極まる所の歐洲人と劒を交ゆるの準備を爲し置かんければなりません其の準備とは他なし、兵備を擴張するのです、兵士を養成するのです(然り〳〵)故に吾々は兵士を大切にし兵士諸君を尊重すると同時に其の名譽と健康とを祈り併て來會者諸君の一方ならざる御厚意を感謝致します(ヒヤ〳〵大ヒヤ〳〵〳〵)

○同　其二

名譽ある兵士諸君の入營に先ち茲に送別の小宴を開きたる所遠近の諸君が熱心贊成を表せられしは本會の光榮此上なく我々首唱者の深く鳴謝する所であります、今や首尾能く露國に打勝ち、露國を屈服

せしとは云へ乍去ら決して油斷は出來ません(然り〳〵)露國と雖も馬鹿な國ではありません鈍馬の國ではありません無神經の國ではありません否世界强大の國で有て世界一等の陸軍國であれば何時如何なる捲土重來の勢を起して日本へ押寄せ來らんとも測られません、復讐的に海陸攻め來らんとも測られません(同感〳〵)デすから勝た上にも猶勝たん用意、準備するこそ肝心ですデすから吾々は飽まで武士的精神を養成せんければなりません武士的思想を涵養せんければなりません爰に兵士諸君の勇しき首途を送ると同時に伏して滿場諸君の御厚意を鳴謝致します(ヒヤ〳〵大ヒヤ〳〵〳〵)

○同　其三

忠勇なる兵士諸君の送別の會を開くに際し滿場立錐の餘地なく近來稀れなる盛況を呈せしは要するに之れ兵士諸君の人望の致す所併て會員諸君の愛國の思想の熾んなるに歸するものと我々首唱者は偏に感服致すのであります（否な首唱者の勢力の致す所です）所が御馳走は何もありません之れ我々の（滿場諸君に向て深く謝せんければなりません（ノ――〈〈〈）縱し諸君の中には我々は御馳走を食べに來たのでない甘いものを食べに來たのでない唯だ國家を愛する觀念より來たのである、兵士諸君を思ふの一念より來たのであると被仰る方も仏いま

せうなれど乍去ら首唱者としては其力の足らざることを深く赤面流汗するのです（ノ――〈〈〈）唯だ諸君、粗酒乾肴だも辭することなく杯觴献酬の間に兵士諸君の將來の名譽と幸福と健康とを國家の爲に祈られんことを之れ我々首唱者の滿場諸君に對して切に望む所であります（拍手の鳴ること霰の如し）

○入營兵士送別會の答演說

謹で名譽ある村長、有志諸君、滿場の諸君に向て感謝致します我々が今回入營せんとするに就き御丁寧なる饗宴と且つ添ふるに懇切悲壯なるお言葉を以てせらる之れ我々無上の光榮とする所で有ります

我々は諸君御存知の如く無學です、短才です、無能ですが一寸の虫にも五分の魂と云へるが如く我々にも五分位の魂、精神があります から嬉しいことや辛いことや樂しきことは存じて居りますシテ今日諸君の御心情に對しては實に嬉しく喜ばしく感ずるのです蓋し諸君の御心情の厚きことは今日只今より始めたのではありません遠き過去より推し來たのです我々が呱々の聲を此の鄉里に擧げしより二十年の久しき一日の如く熱き御心情に預かッたのです情あるお言葉に接して成長し來たッたのです其の恩の大なる到底此席に於て言ひ盡し語り盡すことの出來んのです然れば、不肖の我々の身なれども入營の後は飽まで諸君のお言葉を拜承し諸君の御心情を奉体し一日片時

も忘るることなく以て其職に盡すと同時に諸君今日の御厚意に背かざらんことを期するのであります(天晴〳〵)之れ我々此席に於て抱く所の期望で有て將來此の期望に對して專ら進まんければなりません、果して然らば採るに足らざる此身、採るに足らざる無學無能の我々と雖も或は知らん其の兵士の本分を盡し得と同時に諸君の御厚情に奉答し得ることあらんかも……茲に敬で滿場諸君、有志諸君、名譽ある村長閣下の御厚意、御深情を感謝致します(ヒヤ〳〵大ヒヤ〳〵)

○同　其二

謹で名譽ある滿塲諸君に向て感謝致します、我々今回合格當籤を以て不日第一師團に入隊せんとするや圖らざりき滿塲の諸君を煩はし我々を送るに斯の如き盛大なる響應を以てせらる實に我々過分の光榮で有て轉た雀躍抃舞に堪へんのであります、抑も我が日本帝國が二千五百有餘年の星霜を閲みし以て今日に至りし所以のものは何ぞ上には萬世一系の天皇陛下在し下には義勇忠烈なる國民の一致せるを以ての結果で有ると云ふことは我々の喋々を待たず賢明なる諸君の既に〳〵知らるゝ所です、夫れ魏々として青空に聳へたる富士山の高く玲瓏たるは萬代不易、世界無比なる我が國体の尊嚴を示しゝつあるのではありませんか彼の湛々たる琵琶の湖水の美を山紫水明

の境に擅にしつゝあるのは我が帝國の寶祚が天地と與に盡きざるを證明してあるのではありませんか(然り〳〵說き得て妙)斯く宇内に冠絕せる我が獨立國の美名を汚さざるは將來國民一般の責任とは申すものゝ殊に兵士たる我々の責任は九鼎大呂より重しと謂はんければなりません、我々一朝國家危急の秋に遭遇せんか、何を以てか奕世變せず悠久たる皇恩に報ひ奉ることを得ん何を以てか國家に對して其の威嚴を損せざる大責任を全うすることを得ん他なし、是れ一片の愛國心即ち日本魂あるのです(ヒヤ〳〵)蓋し日露の戰爭に當り我が帝國の大勝利を博せし所以のものは職として此の日本魂の一致結合せしに外ならんのです夫れ如何に百萬の精兵あるにもせよ、如何に

堅牢なる軍艦あるにもせよ、如何に軍器の充實せるにもせよ、當時國民にして日本魂の結合鞏固ならざらんか爭で滿洲の草を馬蹄の下に蹴散らしてコザック兵を撫斬りにして俄に我が日本帝國の國光をウラル山頭に輝かすことを得んや爭で歐米列國の人心をして肝膽寒からしむることを得んやです(然り〳〵)然りと雖も退いて亦一考するに我々は才もなく智もなく隨て藝もなければ如何にして諸君今日の御厚意に奉答することを得んか是れ夙夜憂慮して措かざる所であります唯だ我々の期する所は飽まで諸君の授け賜はりし訓戒を遵奉し百難屈せず萬苦之れ排し嚴肅なる軍規の下に孜々として武を練り矻々として腕を鍛ひ一朝日露戰爭の如き不幸を再演する際に臨みて

は不學不才の我々と雖も螻蟻の微軀に鞭て生命の存する限り手腕の續く限り君の爲め國の爲め砲烟彈雨の間、鐵火轟發の裡、身を鴻毛の輕きに比し奮進血鬪以て國威を失墜せず、巍々たる富士の靈山をして益々高く湛々たる琵琶の湖水をして愈々深からしめんことを期すると同時に聊か諸君本日の御厚意に報せんと欲するのであります茲に訥辯を顧みず敬て賢明なる滿場諸君の御深情を感謝致します(ヤ〳〵大ヒヤ〳〵〳〵)

熟語

微軀 小なる身　遵奉 シタガヒ奉ル　矻々 セイ〳〵ダス　孜々 セイ〳〵ダス　失墜 オトス
奕世 ダイ〳〵　悠久 ヒサシイ　丸鼎大呂 トウトキタカラモノ　訥辯 ヘタナベン
呱々 赤子ナ泣キ聲　奉体 カラダニツケテ　不肖 オロカ　感泣 カンシンスル　感謝 カンシャイレ

懇切（コンセツ）　斡旋（アツセン）セハスル　杯觴（ハイチヤウ）サカヅキ　献酬（ケンシウ）サカズキノヤリトリ　観念（クワンネン）ホモヒ
復讐（フクシウ）カタキウチ　無神經（ムシンケイ）バカモノ　期望（キバウ）ノゾミ　抱負（ホウフ）ノゾミ　捲土（ケンドヒ）チマクヒノ大ナル
涵養（カンヤウ）ヤシノウ　尊重（ソンチヤウ）タイセツ　暴戾（バウレイ）ランボウ　虐政（ギヤクセイ）ムゴヒ政治　束縛（ソクバク）シバル
雙肩（ソウケン）フタツノカタ　先導（センダウ）ミチビク　侮慢（ブマン）アナドル　信賴（シンライ）タノム　鳴謝（メイシヤ）オレイ

○同　其三

我々が不日入隊せんとするや親愛なる滿場諸君は茲に盛大なる送別の宴を御開き下され旦つ賜ふに悲壯淋漓たる贈辭を以てせられしに對しては如何に愚鈍の我々と雖も感激せざるを得ずと同時に諸君の御厚意に向ては深く鳴謝せんければなりません偖今は弱肉强食の世

であります、優勝劣敗の社會でありますれば縱令ひ平和の風が吹初めて四民太平を謳歌すと雖も決して安心し居ることの出來ざるは恰も眠て居る獅子の背中に乘て居る樣です（然り）破裂せんとする噴火山の上に居る樣でありますれば其の危險たるや實に言ふべからざるのです（說き得て妙）然れば何時如何なる事變の發生せずとも限られません如何なる慘憺たる事實の起らんとも測られんのです實に油斷のならん安心の出來ざる世とは今日只今を意味したるものかと思ひますれば飽まで諸君のお言葉を守らんければなりませんソは平素に於ても勿論なれど兵士と成た我々今日の身分では猶更であります、ダすから入隊の後ち好しや運善く成功すとも或は成功せずとても成否は

敢て論ぜず徹頭徹尾、諸君のお言葉を記臆し、服膺し、銘肝して其職責に當らんと期して居るのです（其の精神最も感服〳〵）斯く云へば或は知らん諸君の中に於ては『汝、獨活的人物その云ふべき資格はなく身分不相應の言葉である』とお咎めなさる御方も之れあることでせうなれども乍去ら諸君今日の御厚意に對しては……諸君の御厚意に感じては斯く言はざるを得んのです否な斯くせんければならんのです爰に敬で諸君の御厚意を感謝すると同時に猶將來とも御見棄てなく熱き御心情を寄せられんことを切に滿場諸君に向て望むのであります（ヒヤ〳〵大ヒヤ〳〵）

○同　其四

名譽ある町長並に滿場諸君が盛大なる祖道の宴を開いて我々を送らるかと思へば實に嬉れしく喜ばしく感ずるのです否な勿体なく難有く恐懼に堪へんのであれば篤く諸君に對して鳴謝せんければなりません、素より我々は身分賤しき者であります、採るに足らざる人物であります（ノー〳〵）乍併ら國を思うの精神に至ては敢て人後に落ちん積りです、デすから一旦干戈相交はるの際に臨んでは縱横奮戰、我が帝國に讐なす醜敵を打斃さんと致します若し又運拙くして刀折れ銃炸け彈盡るの曉に臨んでは光輝ある國旗と其の生命を共にせん

と今より腕を撫て覺悟して居るのであります(其の精神や感服〳〵)之れ大言壯語に似て我々身分の賤き者の口より出すは實に嗚呼の沙汰前後忘却せし者ならんかとお咎らるゝかも知れませんが(ノー〳〵)諸君の御心情に報ずるには斯くせんければなりません國家の御恩に酬ゆるには斯く決心せんければならんかと思ふのです嗚呼國家の御恩は海より大に諸君の御心情は山より高くありますれば茲に滿幅の敬意を表して敬んで感謝致します

○同　其五（海軍）

我々不日海兵團に入らんとするに際し名譽ある村長及び各有志諸君

より御丁寧なるお言葉を賜はりし上猶は盛大なる響應に預りしは實に我々一生の名譽で有れば深く感謝せんければなりません却説諸君も御存知の通り我々は山間育ちの一農夫であります、デすから山に入りて薪を採り野に出でゝ草を苅る抔の事は多少經驗ありとは云へ海邊の事と來ては全で零です眞に無經驗でありますれば恰も漁夫が樵夫の眞似を爲ると同一です(笑聲起る)デすから能く其の責任を全うし得るやは將來に向ての一大疑問であります(ノー〳〵)辯士謙遜する勿れ)況んや學なく識なく胸中無一物の我々に於てをやです故に今日將來とも諸君の後援を仰がんければなりません諸君のお言葉を服膺し、記臆して其の職責を盡し以て諸君今日の御厚意に背かざらんて

とを期すると同時に我が名譽ある村名を辱めざらんと致します嗚呼諸君の御厚恩は言葉や筆に盡されません、唯だ『難有し勿体なし』との言を繰返して以て諸君今日の御心情を感謝致すのであります(ヒヤ〳〵大ヒヤ〳〵)

○同　其六（仝　上）

花は美いものであります闘は磬きものでありますが諸君の心情に對しては如何でせう、到底及ばんことゝ我々は信ずるのです、實に諸君は花あり實ある諸君、深切なる諸君と言はんければなりません之れ我々が熱誠を捧げて其の御厚意、御深情を感謝する所以であります、偖、四面海を以て繞らす我國の如きは海軍の必要なる言を俟たずとすれど我々は學識もなく經驗もなきを如何せん、或は恐る其職を全うするを得ずして我が海軍の名譽を毀損せんことを、故に飽まで諸君の御教訓を奉体し諸君のお言葉を肝に銘し心に刻んで以て其職に從事せんと致します敬で滿幅の誠意を披いて以て滿場諸君の御高誼を感謝致します(ヒヤ〳〵大ヒヤ〳〵)

兵）前途萬里の雲を隔て、　望みを寄する男子の首途
士　千山萬岳いざ踏み破り　やがて本望達して見せん」
の　凝ては貫く巖の面　鐵より堅き男子の決心
述　高嶺の花を手折らぬ程は　いかで挑まん萬里の旅路」

懶◎海や陸にて勝てない奴が　何處で勝ぞや空頼み

○まんじう(滿洲)や朝鮮飴をさらんはんと狙ふカロシヤのどたまハルヒン

○歸鄉兵慰勞會の演說

義勇奉公精神に富める兵士諸君が目出度御歸鄉せられしに付き聊か小宴を設けて以て國家に盡されし多年の勞を慰せんとて茲に本會を開いたのであります、回顧すれば諸君が意氣揚々此村を背にし第二師團に入隊せしより如何に苦心せられしか、如何に辛酸を嘗められしか其れにも拘らず一の干犯もなく一の處罰も蒙らず無事其の職責を全うしたる上に精勤證書さへも上官より戴いて御歸鄉せられしこ

そ之が我鄉の全体の名譽で有て單に兵士諸君一個の名譽のみではありません、何なれば請ふ飜て諸君一考し給へ、一考したらんには我々の言を待たず思ひ半に過る者がありませう、若し諸君の中で有て兵士諸君の中で有て一人なりとも脫隊したり、脫營したり、營倉に投せられたり、處罰を受けたりし者ありと仮定せよ、斯る兵士を出したる村ありと仮定せよ、如何に我々は上天皇陛下に對し奉り下國家に對して不面目であるかを、不名譽であるかを、其の不名譽不面目は兵士一個の身に止らず取りも直さず其の兵士を出したる村全体換言すれば我々鄉黨人士の不注意より出だしたる者と他より批難せられんも我々鄉黨人士は之に向て辯解することは出來ませんノーの

一語を發することは出來ません故に兵士の名譽は取りも直さず村全体の名譽で有て兵士の不面目は村一体の不面目と謂はんければなりません(ヒヤ〳〵〳〵)所で今回御歸郷の兵士諸君は多年其身を苦しめ其心を勞したるにも拘らず國民の大責任を全うし目出度御歸郷せられしてとなれば之ぞ三々の齊しく喜悅を以て兵士諸君の爲め、我村全体の爲めに雙手を擧げて萬歳を三呼する所以であります、言、順序なく、辯、訥辯にして其要を得ずと雖も而も兵士諸君に感謝するの熱誠は敢て人後に落ちん積りです請ふ兵士諸君よ、十分愉快を盡されて以て營舍舍營の勞を慰せられんことを(ヒヤ〳〵大ヒヤ〳〵〳〵)

資料 粗酒粗肴多年の勞を慰するに足らずとすれど諸君咎むることなく以て半日

の歡を盡されんことを請ふ○君、卒酸の間に出入し苦辛の境に奔走せしにも拘らず一の過失なく無病無間その上精勤証さへ得て歸郷せられしは我翌の感服する所で有て其の名譽は實に君一人に止らず本村部落の名譽と謂はざるを得んのです○希くは諸君益々加餐勇を養ひて他日雲蒸龍變の日を俟だれんことを茲に諸君の健康と多年の勤勞とを謹で感謝致します○諸君よ今日は目出度日であります我々の共に親愛する所の山田様が名譽と幸福とを荷うて御歸郷せられしを以てなり○昔し大納言時忠公は平氏に非る者は人にして人にあらずと言はれましたが我翌は兵士にあらざる者は國民として國民の最大義務を盡さんものと云ふに憚らんのです○所が山田様は盡されました、盡して目出度名譽を荷うて今回御歸郷致されました誰か之に對して祝せざる者がありませうや

○同其　二

我郷の兵士諸君が名譽を荷ひ意氣揚々歸郷せられしに就き茲に慰勞の宴を開き聊か多年の勞を慰せんと致します、回顧するに諸君が蹶起一番鋤犁を擲て第九聯隊に入隊せられてより雨の朝、風の夕、日に曝され寒さに冒され以て其身を苦めし事幾何でせう、實に言語に盡されんのです然るに諸君の熱心なる、諸君の義勇奉公の旺んなる敢て此等に辟易せず、屈撓せず所謂一難に遇ふ毎に一倍の勇を起し艱難を見ること屁の如く辛苦を見ること戯れの如く三年の久しき間恰も一日の如く其の國民の最大義務に向て突進盡されし心情に至て

は眞に國民の儀表として我々の齊しく感服し且激賞して措かざる所であります(同感〳〵)嗚呼諸君は是れより鍬を荷うて耕耘の業に從事せざるを得ず田野に出で、殖産興業の實を擧げざるを得ず然り而して其の熱心強勉せるや軍隊中に在りし當時と毫も異なることなく益々名譽を郷黨へ博して品行方正なるを後進子弟に示すことあるや我々の深く信じて疑はざる所であります(然り〳〵〳〵)果して然らば入ては則ち良民と爲り出で、則ち良兵士たりとの古人の金言は全く諸君を云たものと謂はんければなりませんが茲に敬で多年の勤勞を感謝すると同時に併て將來の名譽と健康とを諸君の爲に祈ります(拍手滿場を動かす)

夫れ諸君が露營舍營に身骨を苦しめ以て國家に貢献したるの功決して僅少ならず否多大なることは我々の確信する所であります○諸君は實に帝國軍籍上に異移を放ち後進國民に活ける教訓を與へたる者であります○謹で諸君の健康を祝し併て多年の勤勞を感謝致します○諸君其勞を勞とせず一身一家を顧みず公務に盡したる忠魂義魄誰か聞いて感動せざらんやです○眞に懦夫の心を起し怯夫の心を起さしむる興奮劑と言はざるを得んのです○嗚呼諸君は業成り名揚り目出度歸鄕せられしも我々は何の爲すことなく要程三年を經過したるを思へば豈に赤面の至りならずや

○同其　三

諸君今日は目出度日である、我々朋友間に於て目出度日であるソは

我々親友の山田樣が國民の名譽と幸福とを荷うて目出度御歸鄕致されしを以てゞあります（然り〳〵）人と生れても兵士と爲らん者は如何我々は實に憫然である、不便である可愛相であると絶叫するに憚らんのでありますソは國民の最大義務を盡し得ざるを以てゞす、身体不完全の所あるを以てゞす、身体發育上十分ならざる所あるを以てゞす、所が山田樣は發育上十分で有て、不完全の所毛頭も之れなく國民の最大義務を盡し兵士の職責を全うし而も無病、無罰、精勤証書さへ上官より戴いて御歸鄕せられました我々朋友間より山田樣の如き品行方正なる、義勇奉公に熱心なる、職務上に忠實なる兵士を出せしことは之れ我々朋友間の名譽である鄕黨その物の名譽である

と謂はんければなりません豈唯だ山田樣一個の名譽のみではありませんは是れを以て敬で今日の御歸鄉を祝すると同時に山田樣の爲に萬歲を絕叫せんと致します

山田君萬歲　山田君萬歲　山田君萬々歲

○同其　四（一年志願兵）

親愛なる笹野君よ、茲に來會する余輩は今日君を歡迎するに際し特種の感情が發動して喜悅自ら禁ずる能はざるものがあります、斯る感情は余輩從來許多の兵士に接せしも未だ曾て知覺せざる所で有て特に君に對して初めて之を試みることを得たのであります、近時軍

備擴張の聲と同時に兵士送迎の頻煩を加へ隨て余輩常に誠實なる敬愛を以て之を送迎し爲し得べきの待遇を以て之を滿足せしむるに怠らず其の盛大なる饗宴に於ては迥か今日の歡迎に勝るものあるを言ひ明して之を君に隱匿するを敢てせざるなり乍併ら其の歡迎に當り特種の感情今日の如きものを智覺せざりしは他なし、之れ其の志太郡に對する關係、後進子弟に影響するの感情、君の如く切實なるものの存せざればなり、笹野君よ、君の姓名は志太郡の關係上に於て志太郡の文明的武術上に於て最も貴重なる姓名なり、笹野君の一語は直に余輩をして感發せしむる所の警句にして我が志太郡の發達を意味する名詞なりと云はんも敢て不可なかるべし蓋し志太郡兵士なき

か否な僕指すべからざる程其數ありと雖も一年志願兵たるや甚だ僅少にして曉天の星の如し、然り、其の曉天の星の如くであるも、成績の佳なる君が如きはあらざるなり、君劒を提げて蹶然第三十四聯隊に入るや夙夜公務に精勤し、艱難と戰ひ辛苦と爭ひ或は霜前の曉に膽を鍊り或は苦熱の夕に腕を鍛ひ峻山を辞せず激流を打渡り演習又演習その慘絶悽絶の情豈得て言ふべけんや之れ余輩の深く感謝せんとする所否な國民として感謝せざるべからざる義務ありと信ず殊に君は『志太郡軍人中に其人あり之れ笹野君なり』との上官の激賞と名譽とを荷うて目出度歸鄉せられしてとなれば如何ぞ余輩滿腔の喜悅と親愛とを以て之を歡迎せざるべけんや余は君を以て志太郡一年志願

兵の魁として軍人社會の好摸範として幾多子弟の興奮劑として之を尊崇する者なり況んや其の武藝の卓拔たるにも拘らず學術の深淵なるにも拘らず財産の豊富なるにも拘らず而も着實、質素、品行方正なるに於てをや實に謙遜の美と名譽の美と兩々相待て余輩の眼底に映じて永く忘るゝ能はざるもの存す嗚呼、君の名譽は、志太郡に傳播せり、波及せり、眞に不朽たり、若し余が言を信ならずとせば其れ去て鄉黨人士に問へ、苟も普通學識を有する者ならば必ず君の姓名を知ることならん但し笹野君は志太郎を意味し志太郡と云へば笹野君を聯想すと謂ふに至らん之れ余輩の特種の感情を發動して歡迎する所以にして亦其の幾多の辛酸と幾多の勞苦とを感謝する所なり、請

ふ、君、微意の存する所を享受せられんことを（ヒヤ〳〵大ヒヤ〳〵）

○同其　五（一年志願兵送迎會）

誰か二十世紀を指して和氣駘蕩、祥雲靉靆たる太平無事の文明世界と謂ふ者あらんや、宇内列國龍驤虎視、鋭を磨き劍を拭ひ以て豫め霹靂一聲、硝烟漲天の日を待ちつゝあるものゝ如しです。要するに今日は之れ戰爭休戰の時に異ならんのです今日は決して悠然枕を高うして安眠閑夢を貪るの秋ではありません（然り〳〵大に然り）今や諸君の中に在ては既に首尾能く一年志願兵の現役を卒へ更に進んで風濤狂險なる社會の大海へ浮び出でんとせらるゝ者もありますし又一方

には初めて入隊訓練の艱苦を嘗めんとせらるゝ者もあります此等の諸君は天晴れ國民たる者の一大義務を完うし又完うせられんとする者で有て其事の過去に屬すると將來に屬するとを問はず共に我輩の齊しく感激欣慕して止む能はざる所です（同感〳〵）諸君よ、若し夫れ幸にして天下無事ならんか宜しく退て俱に興に學術を研究し眞理を發揚し以て社會へ貢献せんければなりません若し夫れ不幸にして一朝事あらんか則ち書を抛て劍を執り身を挺んでゝ死地に就き以て我が敬仰する所の皇室の尊嚴と我が親愛する所の大八洲の獨立を擁護せんければなりません是れ豈に大和男子の眞面目ではありませんか是れ豈に大丈夫の期すべき所の一大快事ではありませんか、噫、富

岳頭るゝことありとも琵琶の湖涸るゝことありとも我が日本帝國の獨立は天地と共に永遠無窮です、我が大和民族の光烈は日月と同じく千載消ゆることは無いのです、國に兵士の在らんかぎりは、苟くも世に兵士の種の盡ざる限りは……聊か素懷を演べて以て除隊兵士諸君の多年の勤勞を鳴謝すると同時に併て現役兵士諸君の將來の名譽と健康とを敬で祈ります（ヒヤ〳〵〳〵大ヒヤ〳〵〳〵）

○歸鄕兵慰勞會の答演說（兵士）

茲に來會せられし滿場諸君が菊より秀で蘭より馨しき御厚意を以て不肖我々の爲めに斯る盛大なる慰勞の宴を御開き下されしことを篤く感謝致します、偖、軍人の勤務は世人が普通に想像するが如く氣樂なものではありません、どの位酷いか、どの位辛いかはソは自ら之を經歷したる者に非ざれば到底其の眞味を知ることは出來んのです我々は三年前より現役に服し只今、期、滿ちて除隊の光榮を得ましたが、其間には隨分辛い事や酷い事や悲い事や情ない事や種々な事がありました（ソーでせう〳〵）國家の爲めと云ふ一片の精神がなかッたならば到底之れに堪ゆることの出來なかッたゞらふと思はれる程それ程憂い艱難も致しました乍併ら我々も日本男子です、日本の空氣を吸ひ日本の水を呑み日本の米を食て育た者であります、我々の身は素より國家に差出してあります我々の生命は素より我が君の爲

岳頭るゝことありとも琵琶の湖涸るゝことありとも我が日本帝國の獨立は天地と共に永遠無窮です、我が大和民族の光烈は日月と同じく千載消ゆることは無いのです、國に兵士の在らんかぎりは、苟くも世に兵士の種の盡ざる限りは……聊か素懷を演べて以て除隊兵士諸君の多年の勤勞を鳴謝すると同時に併て現役兵士諸君の將來の名譽と健康とを敬で祈ります（ヒヤ〳〵〳〵大ヒヤ〳〵〳〵）

○歸鄕兵慰勞會の答演說（兵士）

茲に來會せられし滿場諸君が菊より秀で蘭より馨しき御厚意を以て不肖我々の爲めに斯る盛大なる慰勞の宴を御開き下されしことを篤く感謝致します、偖、軍人の勤務は世人が普通に想像するが如く氣樂なものではありません、どの位酷いか、どの位辛いかはソは自ら之を經歷したる者に非ざれば到底其の眞味を知ることは出來んのです我々は三年前より現役に服し只今、期、滿ちて除隊の光榮を得ましたが、其間には隨分辛い事や酷い事や悲い事や情ない事や種々な事がありました（ソーでせう〳〵）國家の爲めと云ふ一片の精神がなかッたならば到底之れに堪ゆることの出來なかッたゞらふと思はれる程それ程憂い艱難も致しました乍併ら我々も日本男子です、日本の空氣を吸ひ日本の水を呑み日本の米を食て育た者であります、我々の身は素より國家に差出してあります我々の生命は素より我が君の爲

めに捧げてありますから縱令ひ骨身を碎かれやうが縱令ひ生命を取られやうが君の爲め國の爲めとしあらば決して厭ひは致しません（天晴れ〳〵その御精神）反て其れこそ本望の至りに思ふのです、既に此の覺悟あれば艱難に出逢ふことは寧ろ非常の樂みです、苦勞に堪ゆるは寧ろ非常の愉快なんです、漸く軍隊の規則に慣れ軍人の勤務に熟する場合に至ては終に冷然として艱難を嘲り悠然として苦勞に安んじ得るに至るのです、斯く申したとて我々も亦人間です、生た人間ですから寒いこともあり、暑いこともあり眠いことも空腹たことも ないではありませんが乍去ら日本帝國は平生の場合に有ても我々に向て暑さ寒さに耐へんことを求めます、日本帝國は必要の場合に於

ては我々に向て寢ず食ざらんことを求めます否な、我が大日本帝國は危急の時機に迫りては我々の命さへ求めます我々不肖とは申すものゝ之れ丈の事は兼て承知して居ります『國家を先にして我身を後にせよ』と云ふ所謂る一片の愛國心は遂に我々をして三ケ年間、艱難の何物たるを知らず無事に且つ愉快に現役を卒へしめ本日此の盛會に臨みて親く諸君の懇篤なるお言葉に與かるを得るに至つたのは我々の非常に光榮とする所であります、三ケ年の現役は既に終りを告げたれば我々は今より各の其志す所に從事することが出來ます、微力素より爲すに足らずとすれど幸に軍隊に居りしゆゑ日頃養成したる所の勇敢忍耐の氣風と活潑果斷の氣質とを藉り奮勵勉强誓て諸君の

御好情に報ゐる所あらんことを期します、若夫れ青天俄かに雲を起し疾風地を捲いて人馬塵中に馳するが如きことあらんか銃に裝し劍を揮ひ挺身死地に馳せ入て身を以て國を守り國旗と生死を決せんものと今より覺悟して居るのであります聊か一言を述べて以て諸君滿幅の御厚意を感謝致します(拍手の鳴ること霰の如し)

資料

今日再び諸君とお目に掛るを得たのは我々の最も光榮とする所であります

○回顧するに前年我々が入營する當時に於ても諸君は非常な御優待を爲し下され今亦斯る丁重なる御饗宴を賜はるに至ては我々は何とお禮を申して可からふや其お禮を申す言葉に苦むのであります

●同其　二

名譽ある村長並に有志諸君、親友諸君、滿場諸君が歸鄉早々我々が爲に斯くも盛大なる慰勞の宴會を開き下されし其の濃厚なる御心情に向て謹て感謝の意を表します回顧すれば不肖我々が前年入隊せんとするや諸君は御多忙の時節なるにも拘らず出來得る限りの心を盡し出來得る限りの心を添へて盛なる送別會を御開き下されしことは今猶ほ心目に忘れんのです其の難有さ加減は隊に居るとき遇ふ人に咄し別るゝ者に語り同僚に言ひて遠き他鄉より蔭ながら感謝しつゝ有たのです、所が今又斯る盛大なる御心情に遇うとは夢さら知らんので有て其の難有さ勿体なさは何と申して可らふかお禮を申上ぐる言葉に苦しむのであります、嗚呼一度ならず二度までも斯る御深情

に過うて而も我々の結果如何と顧みれば唯だ〳〵慚愧に堪えんのです、赤面の至りに堪えんのですンは申す迄もなく成績の佳ならざるを以てゞす、成績の不結果であるを以てゞす（ノー〳〵謙遜〳〵〳〵）有体に云へば三年の光陰を空しく營中に送たのみであります、三年の貴重の光陰を露營舍營の間に碌々として經過したるに止るのです嗚呼鴉に反哺の孝あり鳩に三枝の禮あり禽獸すら猶恩を知る然るに余何爲る者ぞ謭劣菲才なることは天性に因て如何ともすべからずとは云へ乍去ら千日の稽古を銃劍の間に致して諸君の厚意に對して語るべき功なく談すべき價値なきとは（御謙遜無用〳〵〳〵）一念此に至ると きは荊の筵に坐するが如く慚感交々臻て身を置く所に苦しむのです

唯だ〳〵我身の不肖を知ること益々深きと同時に諸君の御心情の愈〳〵高きを感嘆して禁ずる能はざるのであります此に親友諸君、有志諸君、村長閣下の濃厚なる誠意誠情に對して敬で感謝の辞を申上げます（ヒヤ〳〵大ヒヤ〳〵〳〵）

○同其　三

不肖我々〳〵が期満ち除隊歸郷するや満場の諸君は盛大なる宴を開いて其勞を慰せらる厚意身に餘りて謝する所を知らんのであります、我〳〵三年の間營中に居て艱難と戰ひ辛苦と爭ひ無事其職を務め得た所以の者抑も誰の力である他なし、諸君の力です、諸君の後援です、

諸君の教訓の然らしめたる結果であります、諸君は我々が前年出發の途に就かんとするや最も丁寧に最も深切に前途の方法を指し示し兵士の要務を教訓し國家に處するの最大義務を懇説し其言一々肺腑中より出でざるなし我々の今日ある、我々の今日除隊の光榮を得しは全く諸君教訓の然らしめたる所で有て我々は唯だ其の教訓を遵奉し其の教訓に從ひて專心一意に進みたるに過ぎんのです（謙遜〳〵）若し諸君の教訓なく諸君の後援なきときは我々一身の不名譽は申す迄もなく我が親愛なる鄉里の名譽をも瀆し引て帝國軍籍の名譽をも毀損したるかも知れません、之を思ひ之を考ふ時は諸君が我々に與へたる効果は實に甚大で有て到底一席の短時間では感謝の辭の述べ

盡されんのであります、唯だ『難有し』との言を終生忘れず肝に銘し骨に刻んで以て滿場諸君の御厚意を感謝致します（ヒヤ〳〵大ヒヤ〳〵）

○同其　四

諸君と手を握て再び一堂の上に相會することは余の最も喜ぶ所で有て其の御優待に至ては篤く感謝する所であります余は一昨年十二月を以て當村を發し兵役の途に就き其の出發の際にも名譽ある町村及び滿場諸君は余の爲めに送別の宴を開かれました今も猶諸君の厚情の辱を忘れません、當時その席上に於て余は諸君に向て兵士は重大なる責任を有し到底余の如き無學無能の任ゆる所でないことを言

ひ明かしましたるが、果せる哉其言違はず、他の人々は各得意の伎倆を現はし名譽の錦を身に飾りて意氣揚々歸郷せられしにも拘らず余は依然として吳下の阿蒙たるに過んのです實に諸君に對して面目ない斗りでなく余自身と雖も慚愧の至りに禁へんのです、所が諸君の親愛なる敢て之を咎むることなく却て丁重なる慰勞の宴を開かれ且つ添ふるに過分の褒詞を以てせらる嗚呼諸君の恩や何を以てか報ずることを得ん唯だ感泣して感謝するあるのみであります(ヒヤ〳〵大ヒヤ〳〵)

資料 男子三日遇ざれば將に眼を刮ふべしとの金言あるにも拘らず余依然として舊態を存す○ナポレオン一世が幼年學校より出でゝ始めてパリー(佛國)の士官學校に送らるゝやコルシカの母の許に贈れる書に曰く「長劍を横へ、ホーメルを懷にし世界統一の途上に上れり」と果せる哉彼れは殆んど歐洲を統一して餘威をアフリカ遠境に及ぼしたるを余や如何ん……

○新兵懇親會の演說(同懇會の演說も之と同じ)

今日、諸君と一場の上に手を握て相見ゆるを得たるは我々の光榮とする所で其喜びたるや雀躍燕舞に堪へんのであります、是非此の喜び、是非此の懇親は將來永く結合保全せられんことを我々は今日只今より親愛なる滿場の諸君に對して望むのであります(同感〳〵)抑も兩軍相對し砲聲雷の如く起り彈丸雨の如く飛び一軍は全滅し一軍は大勝を博す所以のものは何ぞ、其の原因は如何、或は武器の精

良ならざるものもあるでせう、或は忍耐の鞏固ならざるものもあるでせう、或は衆寡均しからざるものもあるでせうが我々は結合力の確固たらざるに基くものと斷言するに躊躇せんのです、協同一致の固からざるに由るものと斷言するのです、和衷協同の力の足らんものと言ふのです（ヒヤ〳〵大ヒヤ〳〵）夫れ和衷協同の力は大した者であります和衷協同して成功せずと言ふ者は古よりありません亦和衷協同せずして成功したと云ふ例もありません之を以て『衆心城を築き衆心城を壞る』と云ふのです衆心城を壞るとは諸君の知らるゝ通り人々思ひ〳〵の心を抱いて協同せんのです所謂るお前アッチへ私コッチラと右と云へば左、白と云へば黑、背中合せ鉢合せ勝手の熱を吹

立てゝ和衷せざるのであります各個々別々の意見を抱き精神を有するときは縱令ひ百萬の精兵ありと雖も軍艦大砲山の如くありと雖も金城鐵壁ありと雖も何の用にか立たん戰はざる前に敗形既に現はれ居れば之を衆心城を壞ると云ふのです（ヒヤ〳〵大ヒヤ〳〵）結局露國の日本に負けたと云ふも是れなんです其れに就ては種々の珍說も聞いて居りますが時間が許さんから後日に讓ると致しませう（遺憾〳〵）日本の勝て勝て勝ち續けて世界開闢以來の戰爭本へ花々しき花を咲せ環視の列强が櫟眼でヤンヤ〳〵と持囃し、喝采し、拍手して日本を世界の强國とし日本皇帝を亞細亞の大皇帝と崇め奉るも他なし、君臣心を同ふし將卒心を一にし邊郡の民は鋤を擲て雲集し兵

を荷うて奮起し兒童は紙を貼て旗と爲し老父は粮を齎らして聲應し慈母は子を諭して戰場へ赴かしめ貞婦は良人を勵まして隊伍に列せしめて唯だ後れんことを之れ恐れ白刃に觸れ銃丸を冒し傷いて撓まず死して悔ゐず誓て國家の爲めに百萬虎狼の露軍に抗し遼東還附の恥辱を雪がんものと五千餘萬の同胞勇氣一時に烹返へり血湧き肉動き臂張り腕鳴り女子は男子たらざるを遺憾に思ひ男子は軍人たらざるを口惜がり軍人は旭旗を敵の城頭に飜へさゞれば生きて故郷の土を踏まじと其の勇壯の意氣抑ゆることの出來んので所謂る和衷協同衆心是れ城を築くと云ふのであります（ヒヤ〳〵大ヒヤ〳〵〳〵）結合力の確固たる者と云ふのであります、協同一致の固き者と云ふのであります、然らざれば如何ぞ世界一等の陸軍國たる露國を打斃すことが出來ませうやピートル大帝より二百余年間歐洲の重鎮たる露國を屈服せしむることが出來ませう……故に我々も飽まで此心を儀表として摸範として艱難相救ひ辛苦相扶け足らざるを補ひ餘りあるを分ち一心同体以て和氣靄々たる今日の情を將來永く保全せられんことを特に滿場諸君に對して望むのであります（ヒヤ〳〵大ヒヤ〳〵〳〵）

○同其　二（同上）

本日懇親の宴を開くに當て不肖我々も其の席末に列するの光榮を得たれば訥辯を顧みず一言せんと致します（謹聽）蓋し本會を開きたる理

由は抑も何に因るか我々は其の原因を知らずとすれど要するに我々の將來に向て同一に其の成功を收めんとする親愛なる諸君の熱誠より出でたる者と斷定するのです、嗚呼諸君の我々を思ふこと斯の如く諸君の我々に温かき情を寄せらるゝこと斯の如し我々如何ぞ諸君に對して感泣して且つ謝せざるを得んやです夫れ『二人心を同ふすれば其利金を斷つ』と云ふ金言があります、二人心を同うして金を斷ち切ることが出來るとしたならば三人四人と心を同うしたらんには其の結果は如何ん、金城鐵壁も碎けざるは無いのでせう、峨艦鐵艦も破れざるは無いのでせう銃砲彈丸も怖るゝに足らんのでせう（然り〳〵）戰ふ毎に戰勝の功を得て進む毎に勝利の神

は導くのでせう、故に人は協同せんければなりません、懇親の途を購せんければなりません親睦の心を結ばんければなりません（同感々〳〵）豈唯だ我々人類のみではありません萬事総べて皆斯くの如しです、夫れ細いと云たら毛でせう其の細い毛ですから誰でも切ります、弱い所の女でも切ります、鼻垂らしの小供でも切りますが乍併ら之を一筋二筋と數限りもなく重ね合せ結び合せて一の大なる綱と爲したらんには如何でせう我々とても到底切ることは出來ません我々は遺憾ながら切ることは出來んと云ふのです否な我々のみでなく彼の動物中の大王とも云はるゝ象と雖も切ることは出來んです却て引退らるゝと申されます之れ毛の結合力の鞏固なるのです。結合

力の強いのです、デスから我々も將來に向て成功せんとするには結合するより外はありません肝膽を開き城府を撤して一致協同するより他に良策は無いのです諸君深く此に注意する所あつて斯の會を御開かれたるは一は以て我々前途の爲め一は以て帝國將來の爲め大に發展成功するものありと我々は雙手を擧て本會の盛況を祝すると同時に首唱者諸君の一方ならざる御盡力の勞を感謝致します（ヒヤ〳〵大ヒヤ〳〵）

○同　首唱者開會の演說

茲に懇親會を開くに際し遠近の諸君が奮て御臨席下されしは我々首

唱者の喜悅措かざる所で有て本會の光榮も之に過ぎんのであります れば篤く感謝致します、偖、本會を開きたる所以のものは他なし、お互に懇親を結ばんとするに在るのです、顏も知らず姓名も識らざるときは途中で逢ても失禮したり隊中に居ても失敬したり自然と親密の情を缺いて圓滿に總べての事が行き渡らんのであります、所が一たび姓名を知り顏を知り合ふたるときは如何、之れよりお互の意思相通じて一見舊知已の如く、骨肉の如く、金蘭の交りを結びて共に事業を天下に成したる者も古より多々益々之れあるのです、我々も今日此席に於て諸君と談話を交換したり御姓名を知りたる以上は飽まで親密に交際して秦人の越人を見るが如き觀之れなく古人に劣

らざる光榮を保たれんことを之れ我々首唱者の期望する所で有て本會の旨趣も之に外ならんのであります茲に滿腔の熱誠を捧げて來會者諸君の御厚意を感謝致します（拍手滿場を動かす）

○同　首唱者の答演說

名譽ある司令官並に郡長閣下貴顯紳士の御來臨を辱うし親切懇到なる御教諭を賜はりしは本會無上の光榮とする所で有て我々の篤く感謝する所であります、偖、我々前途を想望すれば報効の任益々重く且大なることを知るのです、想ふに諂劣菲才の我々が何を以てか諸君の恩愛に答へ國家の鴻澤に報ずることが出來るでせう心窃に其任

に堪へざることを憂慮して措んのであります乍去ら成敗利鈍の岐るゝ所以は他なし、唯だ勉むると勉めざるとに存すれば我々不肖と雖も精勵勉强して怠らずんば或は報効を他日に望むことの出來んとも限らんのでせう況んや五ケ條の御聖諭曩に下りて奉遵すべき既に明に今亦司令官郡長閣下並に各諸君の辱き訓旨を拜戴し益々其途に處する所以を知るに於ては猶更であります然りと雖も退て復た考ふるに軍事上の事は重大にして幾多の困難と幾多の障害と其の行路中に横はりつゝあれは微力の我々が或は此の行路の難に處し此の前途の重任に當て之を貫徹し能はざらんかと思ふて此に至れば寒からずして身慄然たらざるを得んのです唯だ願くは聖諭を服膺して諸君の訓

に堪へざることを憂慮して措んのであります、乍去ら成敗利鈍の岐る、所以は他なし、唯だ勉むると勉めざるとに存すれば我々不肖と雖も精勵勉強して怠らずんば或は報効を他日に望むことの出來んとも限らんのでせう況んや五ケ條の御聖諭曩に下りて奉遵すべき既に明に今亦司令官郡長閣下並に各諸君の辱き訓旨を拜戴し益々其途に處する所以を知るに於ては猶更であります然りと雖も退て復た考ぶるに軍事上の事は重大にして幾多の困難と幾多の障害と其の行路中に横はりつゝあれは微力の我々が或は此の行路の難に處し此の前途の重任に當て之を貫徹し能はざらんかと思ふて此に至れば寒からずして身慄然たらざるを得んのです唯だ願くは聖諭を服膺して諸君の訓

らざる光榮を保たれんことを之れ我々首唱者の期望する所で有て本會の旨趣も之に外ならんのであります茲に滿腔の熱誠を奉げて來會者諸君の御厚意を感謝致します(拍手滿場を動かす)

○同　首唱者の答演說

名譽ある司令官並に郡長閣下貴顯紳士の御來臨を辱うし親切懇到なる御教諭を賜はりしは本會無上の光榮とする所で有て我々の篤く感謝する所であります、偖、我々前途を想望すれば報効の任益々重く且大なることを知るのです、想ふに諭劣菲才の我々が何を以てか諸君の恩愛に答へ國家の鴻澤に報ずることが出來るでせう心窃に其任

旨を遵奉し造次顚沛だも敢て之を忽にせず百難を忍び萬苦に耐へたらんには未だ必ずしも涓滴の効なきにしもあらず其れ或は國恩の萬一に酬ひ奉り併て諸君今日の光榮を空うせざるに庶幾らんかと信ずるのであります、聊か微衷を述べて以て諸君の御厚意を感謝致します(ヒヤ〳〵大ヒヤ〳〵〳〵)

○凱旋兵歡迎會の演說

有史以來なき戰勝者の凱旋に接して我々は欣喜雀躍手の舞ひ足の踏む所を知らんのであります、嗚呼諸君の熱血迸る所に鐵艦なく奮進突進する所に堅城なく陸に海に連戰連捷國光忽ち地球上に輝いて萬

邦觀て喫驚瞠若せん者はありません(然り〳〵)我々何の幸ひ有てか此の千載一遇の幸運に當て千載一過の戰勝者に謁するを得るのでせう思ふて此に至れば感極て之に次に涙を以てするのです、看よ、我々の單に喜ぶのみでなく鳥は清音を放て諸君の戰勝を歌ひ山は益々美を獻じて諸君を歡迎しつゝあるではありませんか嗚呼諸君の功は赫々として世界の戰史を色彩して日月と光を爭ひ千秋萬歲と高く萬万海と尽ることなきや我々の深く信じて疑はざる所であります茲に敬で諸君の功を頌すると同時に併て異境萬里、國家の爲に奮鬪決戰せられし勞を感謝致します(拍手雷の如し)

○同　其二

千軍萬馬の間を蹴破りて名譽の錦を着て歸郷せられし我郷の兵士諸君を歡迎するに當て我々は歡天喜地足の踏む所を知らんのであります、夫れ多年國民の血に泣き涙に咽びし遼東還附の恥辱を雪ぎたる者は果して誰でせう、世界一等の陸國を打斃したる者は果して誰でせう、ピートル大帝より露國百年の長計を根底より覆へしたる者は果して誰でせう他なし、之れ諸君です、勇猛絶倫なる兵士諸君です嗚呼諸君の功や玲瓏たる富岳の天半に聳へたるが如く湛々たる琵琶の湖水の美を四境に擅にするが如く發しては萬朶の櫻の旭日に映ずるが如く唯に我が二千五百年來の歴史を飾るのみならず世界戰史上へ一大光輝を喚發せし者と謂はんければなりません之れ國家肇造以來の大功名にして我々が諸君に對して歡天喜地の情に堪へん次第であります（同感〈〈〈）茲に敬で其功名を祝すると同時に血河屍山の間縱横健戰の勞を感謝致します（ヒヤ〈〈大ヒヤ〈〈〈）

（凱旋歌）

皇軍は去年の春
虎臥す高麗の荒野より
越ゆれば易き海山の
ロシヤの夷を打膺め

佐世保港を船出して
シベリア指して攻入りつ
千里の外の雲迷
早く揚げつる勝鯨波の

（歌）

高きは國の譽なり
光りを仰ぐ日の本の

今年の春は外國も
境ひろぬく浦安の

船路をやすく歸り來て
千代萬代と我君の
今日は都の大内山
御代の榮にを祝ふなり

○夜學開會の演說

燈火相親むの時節に際し茲に青年夜學會を開設せしに遠近の諸君奮て御來會せられしは實に本會の光榮で有て我々の感服する所であります社會の進歩するに伴うて學問の必要を感ずることは我々の喋々を待たず諸君の既に知らるゝ所です、今は實に學問の世の中です商法をするに付け農業をするに付け大工となるにも左官となるにも兵士に行くにも皆學問の必要を感ずるのです（然り〳〵其說最も然り）『學べ

は庶民の子も公卿と爲り學ばざれば公卿の子も庶民と爲る』と古人も言はれし如く眞に今の世に於て其の適切なるを感ずるのです、ソは今や階級的政治は撤去せられて自由政治と爲り、自由政治と爲りたるが故にドンな丁稚でも奴隷でも貧乏人の子でも熱心に勉强するときは立身出世は自由に出來るのです、人の上に立つことが勝手に出來るのです即ち敎員と爲ることも出來、村長と爲ることも出來、若くは一躍して國會議員と爲り、總理大臣までには爲れるのです總理大臣と爲れば年俸八千圓ろれに交際費等が附くから之を月給に直せば一ケ月に少くも八百圓、一日に少くも二十七圓ほど取れるのです、如何です一日二十七圓取て二頭馬車に乘て威張て歩くが好いか但し

は糞桶擔いで汗水流して田畑の間をセッセと稼いで居るのが好いか（總理大臣が可い〳〵〳〵）幵は諸君のお好次第です、勉強すると勉強せざるとに由て判る〻のです、今の世の中は勉強さへすれば出世はズン〳〵出來るのです、所で諸君は將來總理大臣になれるでせう、總理大臣と爲て威張て歩くのでせう、ナゼなれば諸君は奮て此の夜學會に來ればなり夜學會に來りて熱心勉強するを以てなり余は實に我が村内の爲めに此の夜學會が益々隆盛に趣かれんことを切に望むのであります（ヒヤ〳〵大ヒヤ〳〵〳〵）

○同其　二

親愛なる諸君の御尽力に依て茲に本村夜學會の設立を見るに至りしは我輩に取て無上の幸福であれば篤く感謝せんければなりません、諸君よ、諸君、今回露國の連戰連敗したる原因は抑も何に基くのでせう、其には種〻の原因があることでせうが我輩は其の無教育が最大原因を爲したる者と信ずるのです、即ち教育が行き渡らず、學問が國民の頭腦へ遍く浸み込まん結果であると絶叫するのです（ヒヤ〳〵〳〵ノー〳〵）諸君或は言はん否教育と戰爭とは別問題なり、一方は武斷にて斬たり打たりすることを事とし一方は文治にて疊の上で穏かに國政を調理するを

手を書けば恥もかゝぬを書かざれば
恥をかいたり頭かいたり

事とすれば豈に文治と武斷とを滅茶苦茶に論ずるを許るさんやと（然り〳〵）夫れ然り豈に其れ然らんやです、諸君請ふ一考し給へ敎育なき國民は國家觀念の乏しい者です、國家觀念の乏しい者は愛國の忘想の無い者です、愛國の思想が無ければ隨て國が亡びても何とも思はず天子が殺されても何とも思はず唯だ我さへ生きて達者で樂に其日を送て行けば可いと思ふより外は無いのです、なんでも、かんでも命が大切、命あッての物種として矢鱈に逃げたり矢鱈に降參したり矢鱈に捕虜と爲たる結果トウ〳〵米粒如き日本國に屈服して滿天下に赤恥を晒らしたのであります（ヒヤ〳〵大ヒヤ〳〵）斯くなるときは山の如き戰鬪艦も何の益にも立たんのです拔けば魂散る精鋭の武器も

何の用にも立たんのです百萬の陸軍海軍も唯だ敵に功名を成さしむるに過ぎんのです、デすら武斷と文治とは遠く懸離れて居る樣ですが其實決して懸離れて居るどこでなく密着して離れんのであります（眼光火の如し）夫れ敎育を盛にし、學問を普く國民の頭腦に浸み込ますときは國家觀念自ら生じ國家觀念生ずるときは隨て國を愛し君に忠し所謂る義勇奉公の心勃然として發して彈丸雨飛の間も憚らず血河屍山の巷も怖れず決戰縱横一死惜まざるのであります（ヒヤ〳〵大ヒヤ〳〵）之れ日本兵の露國に對して百戰百勝したる活歷史たるは諸君の熟知せらるゝ所敢て我輩の辨ずる迄もありません　斯る理由の存するを以て我輩は深く本會の設立を歡迎すると同時に益々斯會の健全

に隆盛に末永く發達せられんことを切に望むのであります(拍手喝采滿場を動かす)

(勤學の詩)

裘褐莫恨無良媒
書中車馬多如簇
富家不用買良田
六經勤向窓前讀

書中有女顏如玉
安居不用架高堂
書中自有千鍾粟

出門莫恨無人隨
書中自有黃金屋
男兒欲遂平生志

○同　閉會の演說

我々は惜むのです、深切なる丁寧なる慈悲心に富める先生並に幹事諸君に別るゝのを惜むのです、回顧すれば本會の設立より以來、如

何に諸君の御深切に與かりしか如何に諸君の御丁寧なる御薫陶に與かりしか如何に諸君の慈悲心に沐浴せしか到底言葉や筆に書き盡し言ひ盡されんのであります況んや短時間の此席に於ては猶更であります嗚呼縱令ひ斯會一旦閉會を告ぐとても諸君は決して御見棄てなく今日只今の如く最も温かき情を我々に寄せ以て其及ばざる所を扶け其足らざる所を補ひ其の不注意の点を御忠告下されんことを之れ我々の偏に敬愛なる先生並に幹事併て滿場の諸君に對して切に望む所であります(拍手雷の如し)

○算術研究會設立の演說

算術の必要たるや言を待んです、社會の文明に趣くに隨て益々其の必要を感ずるのです、請ふ看よ、理學をやるにも化學をやるにも天文學をやるにも先に立つものは算術ではありませんか（然り〳〵）其他海軍でも陸軍でも醫者でも皆算術が必要なるのです唯だ錢金の勘定に用ゐる許りではありません苟くも今日身を立て名を成んとする者は算術の力を籍らんければなりません、所で諸君斯會を立つ實に時勢の赴く所を達觀して社會の急務に應じたる者と謂はんければなりません殊に先生は英名四隣に聲いて多年の經驗と獨得の伎倆とを有すれば諸君の學ぶ所日に月に進歩して本會の隆盛ならんことを期して待つべきであります今日斯會の起るを見て欣喜禁せず敬で祝意

を表します（ヒヤ〳〵大ヒヤ〳〵）

○同　閉會の演說

本日閉會を告ぐるに臨んで親愛なる先生並に幹事諸君に對して敬で感謝致します、我々は無智です、無能です、殊に算術と來ては最も不得手です、所が親切なる先生、丁寧なる諸君は敢て其の疎氣を咎めずして毫も五月蠅の顏を示さゞるのみか却て憫然の同情を寄せられて詢々として之を敎へ懇々として之に授げ三十日間一日の如きに至ては我々は實に感謝する所を知らん程られ程、難有く、辱く、嬉しく感ずるのであります（同感〳〵）今や諸君と別れを告げて我々

は退いて田圃の間に從事し鍬を執ては畑を耕し草を刈ては田に施し山に入ては薪を採らざる可らずとすれど豈に諸君の御恩を忘るゝことが出來ませうや一生の久しきと雖も此の御恩は忘るゝことの出來んのです茲に敬で只今までの御厚意を感謝すると同時に親愛なる先生並に幹事諸君の健康を祈ります(拍手喝采湧くが如し)

○開店祝ひの演說

菊花清香を放ち紅葉錦を綴るの好時期に際して茲に開店の盛典を擧げられ余輩其の席末に列するの光榮を得たれば如何ぞ一言なくして可ならんや夫れ世の文明に趣くに伴うて競爭は免れんのです、優勝

劣敗の勢を釀しつゝあるは近時に至て益々其の激甚を認むるのであります(然り〳〵)然して之に處するの途は他なし、機敏と勉强と正直と信用とです而して、本店の御主人は我々の喋々を待たず最も機敏に最も勉强に最も正直に其の業務を執れることは之れ塲諸君の既に〳〵熟知せらるゝ所で有て我々の朝夕欣仰して措かざる所であります、宜べなる哉、信用益々社會に廣りて業務日に盛大に趣き未だ十年の日子を經過せざる中に斯くも壯麗なる家屋を新築して此に目出度開店の祝典を擧げられしことは(目出度〳〵)我々は欣喜雀躍の至りに堪へんで千千に千八千と此家の彌が上に彌榮えて紅葉の錦と光を放ち菊花と俱に香る名譽を益々四方に傳播せられんことを敬で

此席に於て祝ふ（ヒヤ〜〜大ヒヤ〜〜〜）

○同窓會の演說

櫻花爛熳の好時節をトし茲に第八回の同窓會を開くに際し我々も其の席末に列するの光榮を得たれば敢て訥辯を顧みず一言以て本日の盛會を祝せんと致します（謹聽〜〜）却說諸君よ。我々をして何にか一番好きかと問ふ者あらば余は直ちに答へんとす、酒でなく肴でなく若くは二八の別嬪でもない……唯だ朋友である、滿場の朋友である と絕叫するのです（其れ或は然らん、豈に其れ然らんや）諸君疑ふ勿れ詭辯を弄するとなす勿れ、實際です全くです、看給ひ諸君、別嬪は婀娜窈

窕として櫻の花の如く美は即ち美なりと雖も將來我々に向て何の助かある、我々の立身出世の途に向て何の後援を與ふる、諸君與ふると云ひたいが云へんでせう唯だに與へざるのみか却て非常の防害を爲すのである、恐るべき防害を我々の前途に向て放つ者は彼れ即ち別嬪である美人です酒も肴も皆然りです我々の出世の途を妨げて成功の基礎を顚覆するものであります（ヒヤ〜〜ノー〜〜互ひに起る）所が朋友と來ては如何でせう、愛らしき朋友、親密の朋友、深切な朋友と來ては如何でせう唯に我々の前途を妨げざるのみならず我々立身の前餘を扶け我々成功の基礎を建て下ざるのです、我々の艱難を救ひ我々の辛苦を助け我々に向て忠告を與へ我々に向て訓誨を與へ以て

光明の途上に導き進む者は朋友にあらずして誰でせう皆是れ朋友の爲す所で有て朋友を措いて他に決して斯る偉大の後援、偉大の勢力を與ふる者はありません故に西洋でも『朋友は己以外の自身なり』と申されます、デす故我々は又『朋友は處世の葡萄酒なり』とも申されます、彼れ別嬪を取らず酒を採らず彼れを採らずして此れを取るのです、親愛なる滿場の諸君を採るのです滿場の諸君に向て飽まで御交際を願はんとするのです聯か所懷を陳じて諸君の御愛顧を請ふと同時に本會の盛況を祝します(ヒヤ〳〵大ヒヤ〳〵)

○青年倶樂部發會式の演說

親愛なる諸君と手を握て一堂の上に相樂むは我々の日頃最も望む所で有て最も愉快に感ずるのです、嗚呼恃むべきは朋友、語るべきは同窓の友である哉、或る場合に臨んでは兄弟よりも同窓の友が便になります或る点に付ては兩親よりも朋友が力になります現在に於ても將來に臨んでも……故に何處までも舊情を温めて親密の情を欠、ん、樣に注意して行かんければなりません(同感〳〵)見給へ諸君彼の扇子を、扇子も親骨子骨チヤンと揃て居る時には風も來るし暑を退けることも出來ますが併去ら若し要でも除れたときは如何でせうバラ〳〵と解けて風も來ず暑を退けることも出來んのです之れ結合力の欠けたかをらであります、亦彼の瓢簞です、瓢簞鯰と日頃諸君

が唱へる如くコロ〳〵と轉がり易き彼の瓢簞でさへ、二つ三つ四つ七つ八つと合せるとチヤンと起て居ります、位置能く起て居りますが之れ何に因て起て居るかと云へば申す迄もなく結合力の致す所であります(然り〳〵)其れ無心のものと雖も斯の如くであれば況して有心の我々に於ては猶結合力、協同一致の必要を感ぜんければなりません(ヒヤ〳〵)総べて社會の事業は協同の力を籍らんければ成功を見ることは難いのです結合力に因らざれば到底大目的を達することは出來んのです、若し余が言を信ならずとせば其れ去て日清戰爭の結果を見給へ、如何に我國は戰勝の歴史に傷けたるか、如何に我國は恥辱を蒙りたるかを、要するに遼東半島を還附したるも協同

せざるに因てゞす露國に嬲られたるも獨力不利の結果です(穿ち得て妙)夫れ一國の事業も斯の如しとしたなれば我々個人の事業に於ても思ひ半に過ぐる者があるのでせう、人或は言はん『我は我たり汝は汝たり『我れ寧んぞ汝の力を藉らんやど乍去ら孤木は折れ易きを如何せん孤燈は消え易きを如何せん、人生行路の長き中には突兀たる山もあり滔々たる大河もありて到底獨力にて渡り得べからざる事もありまず登り切れざる場合もありますれば此説は言ふべくして行ひ難く成功し難くして破れ易き、時勢に通ぜぬ僻論と罵倒するより外はありません(大ヒヤ〳〵〳〵拍手雷の如く起る)之を以て我々は朋友が一番可いと云ふのです、朋友と協同一致して將來の目的地に馳するのが吾人

の最も良策と信ずるのです（同感〳〵）聊か鄙懐を陳ずると同時に益々本倶樂部の盛大に發達せられんことを切に祈るのであります（ヒヤ〳〵大ヒヤ〳〵）

○友人の出京を送る演說（送別會）

今や時勢は滔々と進み來て青年有爲の者を鄉黨の間に埋沒するを許しませんドシ〳〵社會の大舞台へ出して有らん限りの伎倆を揮せんことを促しつゝあるのです（然り〳〵）今回戸塚君の御出京も之に外ならんのでせう、戸塚君は諸君も御存知の如く文に才に學に長て居るのです殊に其の勉强と來ては皆人舌を捲いて驚き且嘆せん者はありません（然り〳〵）我黨に於て勉强家と云たら戸塚君です斯る有爲の人物が一たび東都の檜舞台に出でゝ其伎を磨き其藝を講じたらんには其の進歩の程度如何斗り計り知れんのであります乍去ら余は戸塚君に向て一言せんと致します夫れ東都は學者博士の巢窟で有て英雄豪傑東西に屈起し或は其の雄談壯語を聽くを得べく或は深遠なる學術の妙を聞くことを得べしと雖も隨て魔物其間に縱横して少年前途を誤らすもの比々相望みて其目を惱まし其心を蕩かせば益々其の志氣を健固にし愈々其の精神を不動にし屆せず撓まず一直線に其の目的地に突進せられんことを、不省の我々を以て聰明なる戸塚君に對して斯く申すは恰も釋迦に說法、カントに哲學の理を講するが如き

識りを免れんけれど之れ亦一片の老婆心、君を思ふの餘り知らず識らずの間に此に至れば不遜の言御咎めなきやう切に望むと同時に戸塚君の業成り名遂げ名譽の錦を飾りて目出度御歸郷せられんことを特に此席に於て祈るのであります(ヒヤ〳〵〳〵大ヒヤ〳〵〳〵)

熟語

不遜 イバツタコトバ　魔物 女郎ヤ藝者　埋沒 ウヅモレル　カント 哲學者ノ大先生
罵倒 ノーシリタオス　僻論 ガンコナ議論　孤木 ヒトツノキ　孤燈 ヒトツノアカリ
伎倆 ウデマイ　巣窟 ス　基礎 ドダイ　精鋭 スグレテヨイ

○國民大に發展せよ(青年會に於て)

世界戰史上未だ曾て有らざる大海戰を爲し而して未だ曾て有らざる

大勝を博したるは我々の歡天喜地措く能はざる所であります(同感同感)之れ艦數、噸數、船種及び砲數の外に何等かの優勢力がなくてならんのです即ち誠忠の念燃えて命を鴻毛の輕きに致したる故であります、換言すれば『命懸け』に活動したる故です(然り〳〵)人生一に勝つ者は亦他に勝つ者であります戰爭に勝つ國民は亦經濟等にも勝つものです唯だ『命懸け』の精神を必要とするのです、此の命懸けの精神を以て向つたならば恐るべき强敵夫れ何處にあるやです(然り何處にも)ない〳〵〳〵)我々は信ず、日本海の海戰に大勝利を得て我が常國民は天を衝くの英氣を出し四角八面に大飛躍を企つべきことを、是れ我々が新企業の勃興と共に大に歡迎する所で有て取りも直さず內外資

本の共通てふ希望郷に進むの第一着歩であります(ヒヤ〳〵大ヒヤ〳〵)斯の如く戰捷の餘威を善く用ゐんとならば是れ迄の保護貿易論を擲て世界に向て大に門戸を開かんければなりません、關稅の刷新を計り公債の形式を變へ內債外債などゝ言はんよりは寧ろ共通の公債を發行する方が可のです(早計〳〵、ノー〳〵、ヒヤ〳〵互に起る)門戸を開くと言ふよりも門戸も牆壁も全く之を撤去するが可のです、シテ英米の資本、獨逸の科學、佛國の美術、伊太利の音樂等を自由に輸入し、自由に蔓延せしめよ(國民の力能く之と伴ふや否や、辯士は須らく再考せよ)而して我國よりも有り餘りの人口をドシ〳〵と五大洲へ吐き出すべし、單に朝鮮と言はず、滿洲と言はず、南洋可い北洋可い、要は世

界的發展の途を謀るに在るのみ若し因循進むを知らず島帝國內に蟄伏し箱庭的の生活に甘んじ居たならば折角贏ち得たる所の戰勝の光榮を如何せん、戰勝の光榮と民力發展が之と伴はざる時は豈に百年の大計確立せしと謂ふことを得んやです、百年の大計確立せざらんときは我々は遺憾ながら戰勝の光榮も一時の花と散じ去らんことを慨嘆するを以て茲に一言致して置くのです(ヒヤ〳〵大ヒヤ〳〵)

○國家の危急亘夕に迫れり

我が元老院議院諸君よ、我々が濟度を受くべき好機會を捉へよ、余は永世不滅の神の御名に由りて諸君に請ふ、而して諸君は此の全地

球の議論羅馬の元老院)に於て首位を占めらゝる方々たることを記憶せられよ、羅馬人民に向て彼等は今も猶その勇を典する一章を與へ、諸君も亦同じく國家の危機に諸君の智を典せられよ、さて如何なる必要ありて予は斯く諸君に諫めを献ずるやと云ふに、献すべきの必要眼前に迫りたればなり、今や傲慢、殘忍、卑劣、邪惡なる一の虐政は眼前に迫れり、斯る危急滅亡の秋に臨みて若し安閑として眠を貪りたらんには、此の虐政の前に屈伏すとも固より自業自得と諦めざるべからず、諸君彼のアントニーを見よ、彼れの侶伴を見られよ彼れの全家、即ち非禮、醜穢、賭博、泥醉の巣窟を見られよ、彼れの如き將た彼の侶伴の如き者の其の奴隷となることは不幸の極にし

て且つ不名譽の極にあらずや、若し今日共和政治の終りを告ぐる時刻到來したりとならば、世界の主宰たる我々人民は生存らへて恥を晒さんよりは寧ろ斃れて名譽を完うせん、我々は生れながらにして名譽と自由とを天より受けたれば、是等の燦爛たる光榮を堅く持して寸毫も失ふべからず、能はずんば唯だ潔く死せんのみ、我が羅馬國の同胞諸君よ、望むらくは第一着手として非道の人(アントニー)と非道の政治とを打倒さんと決し、又第二着手として我國の名譽と自由との爲には百折撓まざらんと決心せられんことを、徒らに性命を惜みて恥辱を甘受することは我が羅馬人の夢にだも思はざる所なり我が羅馬人は天命を受けて世界を支配する者なれば、世界を支配す

べき命を受けながらに、支配せんとはなさで却て一人の主人に支配せらるゝは天に叛くと云ふべきものなり、今や我國の危きことは一髪千鈞を引くより甚だし、此時に際して飽くまでも自由を保つか、將た奴隷の境遇に沈むかは即ち榮辱の存する所なり、苟も國家の体面を全うし、人間の義務を盡さんと思はゞ、此の危機に臨みて惡魔を克復するを以て適當の擧動と爲し、信心と協力との二者に依らば克服を望み得べし、而して奴隷となることの外他の萬事を堪え忍ふを以て適當の擧動となす、但し他の國民の如きは或は奴隷と爲つて一日も安きを偷まんと謀る者あり得べけれども、羅馬人が天授の權利と爲し光榮と爲す所の者は自由なるが故に、萬一自由を失ふことも

あらば、何の面目ありて此世に生存ふべきことを得んや(シセロ)

アントニーは少時より無賴漢に交り酒色賭博に身を持崩し大負債の爲に父より勘當を受けたり後ちシーザーに知られて高官に登りしも品行修らず豪奢淫行憚る所なく或は白晝裸体にて市街を横行し或は俳優幇間の爲に婚宴を張り又フルヴキアと名くる淫婦を妻と爲すなど醜聞頻りなりしかばシーザーも屢々之を戒めたりしとゞ後ちクレヲパトラの爲に身を滅せり

○シーザーの殺害に就きて

我が愛する羅馬の同胞諸君よ、暫く耳を澄して我が言ふ所を靜聽せ

られよ、願くは予も亦名譽を惜しむ者と思召して予を信ぜられよ、若し予を咎めんと思召さば各自の智惠に訴へて予を咎められよ、更に一層良き判斷者たらんと思うて各自の感覺を喚起せられよ、若し此の會衆の中に一人たりともシーザーの親友の在すならば、予は其のお方に向つて物申さん『我がシーザーを愛する情は決して足下に讓らず』と然るとき若し其の親友が予に向つて『然るに汝何故にシーザーを殺せしぞ』とお尋ねならば、予は亦之に答へん、そは予はシーザーを愛する情の薄きが故にあらず、羅馬を愛する情の一層厚きが故なり足下よ、足下はシーザー一人死して、あらゆる自由人均しく生きんよりも、寧ろシーザー一人生きて、あらゆる自由人悉く死ねかしと

願はるゝか、よもや左は願はれまじ、シーザーは予を愛せし故に、予は彼れが爲に泣けり、シーザーは幸運なりし故に、予は之を喜べり、シーザーは豪毅なりし故に、予も之を褒めたり、然れども彼れは野心を懷けるが故に予は之を殺せり、左れば彼れの愛に對しては涙あり、彼れの幸運に對しては喜びあり、彼れの豪毅に對しては譽あり、而して彼れの野心に對しては死あるなり、若し此席に奴隷に甘んずる程の卑屈なる人あるか、果して有るならばありと言はれよ予は實に其人に對して罪を負へるなり、若し此席に羅馬人たらざるを善とする野蠻なる人あるか、果して有るならば有りと言はれよ、予は其人に對して罪を負へるなり、若し此席に我國を愛せぬほど賤

むべき人あるか、若し、あるならば有りと言はれよ、予は其人に對して罪を負へるなり、予は暫く中止して其答を待たん……借斯る人は一人もあることなし、然らば予は何人に對しても罪を負はざるなり、予がシーザーに爲したる所は諸君がブルタスに爲すべき所より多きにあらず、シーザーの刺殺に關する問題は大廟に錄せり、ろもシーザーが適當に受くべき光榮は固より減少すべきにあらず、シーザーの罪は死を以て贖ひたれば、別に之を罰するを要せざるなり見られよ、シーザーの遺骸はマーク、アントニーが喪主となりて茲に來らんとす、アントニーは刺殺に與らざれども、シーザーが死したるが爲に一の利益、即、羅馬共和國に於ける一の地位を受くべし

之と同時に予は此席を去らんとす、其故は予もとより國利の爲に我が最愛の人を殺したるにも拘らず、國家若し予の死を望まば、予は彼の短劍(シーザーヲ殺シタル短劍)に伏して死せんと思へばなり(プルタス)

演說の秘訣 或は……は演說中の一縱一橫一抑一張に關して妙なる處、演る者輕々に看過することなく深思熟考一番を要す殊に縱つと云ふは六ケ敷きことなり即ち我說は暫らく止め置いて反對者の意中に入り反對者の說を借り來て其說を以て又直ちに我が攻擊の論鋒を進め上ぐるなり其例を示せば……我がシーザーを愛するの情は決して足下に讓らず……若し予を咎めんと思さば各自の智惠に訴へて余を咎められよ更に一層良き判斷者たらんと思ふて各自の智惠を喚起せられよ……余は暫らく中止して其答を待たん……凡そ英軍を重んじ之を貴ぶことの余に過る者はあるまじ……抔の類

なり本文に就て深思せるらべし如何に其の攻撃の点の巧妙であるかを之を一縷の個處と云ふ

○米國と戰爭に就きての演說

貴族諸君、予は我が英國が災厄に罹り、恥辱を招ぐを見て、世人と共に之を祝すること能はず、且つ祝するを好まざるなり、諸君、今日は危急存亡の秋なり、決して追從を云ふべき時にあらず、追從如何に圓滑なりとも此の恐るべき危機に際して何の益あらん、左れば今日に在りては眞實を吐きて以て帝室を啓沃し奉るを要す、若し能うべくんば、聰明を掩蔽し奉る所の迷霧暗雲を拂ひ而して我が門戸を窺ふ所の零落の眞相を敞覽に供へ奉らざるべからず、內閣大臣は徒に茫然たるのみを以て議會の協贊を得しと思へるか、將、議會は斯くも我が權限を蹂躙せる政策を贊成し、而して己の威信を殞し、己の義務を怠りたるを知らざるか、我が貴族諸君よ、此の政策は堂々たる大英帝國の体面を損じ、之をして天下に笑はれしむる所の政策なることを記憶せられよ、噫、我が英國が天下に雄視したるも最早昔日の夢と化し去りぬ、今は何人か尊崇する者あらん、思うて茲に至れば憮然たらざるを得んや、初は吾人が叛徒として侮り、今は吾人が敵と認むる彼の人民は、畢生の勇を奮うて吾人に抵抗し、其の兵粮彈藥は能く調ひ、能く其の利害を測り、而して其の使節は、

吾が舊來の怨敵(佛國)に優待せらるゝに我が內閣大臣は似氣なくも之を妨げず、否、妨げ肯せざるなり、今や我が英軍が對外の戰に絕望の狀況に陷りたることは、稍、吾人の耳朶に觸れたり、凡そ英軍を重んじ、之を貴ぶことの予に過ぐる者はあるまじ、子は彼等の德、彼等の勇を知れり、予は苟も人間の爲し得べきことは何事にまれ彼等の爲し得べきことを知れり、然れども英領亞米利加(合衆國)を征服することは人間の到底爲し得べき事にあらざるを知るなり、貴族諸君よ、諸君は亞米利加に勝つこと能はざるなり、さて同地に於ける英軍の現況は如何と云ふに吾人は大敗の報に接せざれども、然れども三回の戰ひに一も得る所なく、頗る難儀なりと聞く、諸君よ、諸

君は各經費を增し、各勉力を加へ、各助力を集め、而して諸君の貿易を各獨逸擅制君主の肉市場に擴ぐるを見るべし、然はあれど諸君の企は永く無力無効なるべし、諸君が依賴せらるゝ備兵の助に就いては殊に然らん、其故如何と云ふに、亂暴掠奪を事とする備兵を用ゐて、諸君の敵を壓服するは取りも直さず彼等を怒らしめ、必死の勇を奮はしむる基なればなり、仮りに予若し亞米利加人たらんには我國に外敵の留まる間は決して降ることはなかるべし、我が貴族諸君よ、戰爭の失体と損害とに搗加へて我が軍器の中に蠻人(アメリカ土人)の戰斧と剝皮刀(土人ノ用ヰルモノ)とを加ふるを許し、之を交へしめたる人は誰なりや、山林に住める乱暴殘忍なる蠻人を文明國の同盟

に引入れたる人は誰なりや、爭点となりたる權利の保護を人情なき印度人に委ね、此のむごたらしき師を以て我が同胞を恐嚇したる人は誰なりや、我が貴族諸君よ、斯る凶惡には償と罰との叫聲を高くせざるを得ざるなり、我が貴族諸君よ、然るに斯る野蠻の策畧が獨り政畧と必要との二つより辯解せられたるのみに止らず、併て道德の点より辯解せられたりとは豈驚くべきにあらずや、何故に道德の点より辯解せられたりと云ふや、請ふサツフヲーク卿の言ひし處に注意せられよ、彼れは『上帝と自然とが吾人の手に委ねたる手段を用ゐるを以て全く可なり』と言ひたるに非ずや、予は斯る主義を宣言するを聞き且斯る主義を我が英國の此の議院に於いて公言するを聞く

に及びて、驚愕戰競せざるを得ざるなり、我が貴族諸君よ、予は斯くまでに諸君の注意を煩はし參らせんと思ひたるにあらず、然はあれど予は自ら憤怒を制する能はず、予は言はざらんと欲すとも能はざるなり、諸君、吾人は本院の議員として、人間として、基督教信徒として、斯る恐るべき野蠻の所置に反論を試みざるを得ざるなり上帝と自然とは吾人に斯く反論すべきを命じたるに非ずや、尤も我が貴族諸君には上帝と自然とに就て、如何なる觀念を有せらるいやは、予、之を知らざれども、予は斯る憎むべき主義は、宗教より言ふも、將た人情より言ふも、均しく反對すべき所たるを知るなり、如何に諸君よ、西印度の利皮刀を用ゐて不辜を屠戮するを以て、人

肉を食む蠻賊の如く、其の俘虜を拷問し虜殺し、其の寸斷したる死屍の肉を食ひ、血を飲むを以て、之れ上帝と自然との神聖なる認可に歸すべきや、若し斯く歸し且斯く思ひ者あらば、それこそは德義人情、名譽の感情をして憮然たらしめざるを得ざるなり、斯る憎むべき主義、及び此の主義よりも更に一層憎むべき宣言は、士君子をして赫怒せしめざるを得ざるなり、予は彼の貴重なる判官(衆議院議員)及び此の最も學識ある判官(貴族院議員)に向て、彼等が上帝の宗教を保護せられ、彼等が國家の正義を輔佐せられんことを請ふ、予は僧正(僧の長官)に向て吾人を此の汚穢より救はんが爲に、彼等の清淨、無垢なる法衣を其間に入れられんことを請ひ、判官に向て彼等の潔

白なる黃鼬皮を其間に入れられんことを請ふ、予は我が名譽を重んせらるゝ貴族諸君に向て父祖の体面を重んせられ、併て諸君自身の体面を全うせられんことを請ひ、我國の精靈及び人情に向て國民の性情を保護せられんことを請ふ、予は憲法の神に祈るなり、そも吾人が酷薄なる、將た血を渴望する食人奴を派遣したるは誰を苦しめんが爲なりや、我が同胞を苦しめんが爲めにあらずや、恐るべき地獄の人を募りて其の助けを借りて同胞の國を荒らし其の住宅を毀ち其の同類子孫を撲滅するが爲めにあらずや(アメリカ發見の後ち間もなくスペインはコルテス又はピザロー等の如き將軍を同地に派して其の君民を虐待して殺戮したり故に云爾)彼の女は不幸なるメキシコ土人を族滅せんが爲め

に獵狗を使嗾したりき、然るに吾人は亞米利加に於ける我が國人即ち彼彼の間の最も親密なる人情の存すべき我が同胞を敵として獵狗を放つとは豈に更に一層の殘忍無情ならずや、予は我が貴族諸君に向て及び我が朝野の諸君に向て此の恥づべき處置の上に公敵と云へる不滅の烙印を押されんことを請ひ、殊に我が名僧智識に向て此の惡魔を除き攘はれんことを請ふ、噫名僧智識よ、此の深く且大なる邪行を掃ひて國を清められよ、我が貴族諸君よ、予は年老い体弱りて久しく演說を試むるに堪へず、然れども予が憤怒の念は予をして知らず識らず意外の長演說を爲さしめたり、予は斯る恐るべく顚倒せし主義に對して予の永久不滅の憎念を發せずしては今夜床中に入

るも眠ること能はざるべし、否、加之らず机の上に首を休むること能はざるべきなり(ピット)

演說の秘訣 ブルーハムが曰く雄辯家たらんを望む者は名句、名演說を熟讀して一言一詩之れに則らざるべからず換言すれば熟讀したる上にて暗記せざるべからずと○賴山陽が源平に家戰爭の個處を錯綜して作らんとするや史記の項羽傳を自寫し之を暗誦反覆して始めて司馬遷の文脈を悟り以て日本外史を編纂せりと故に外史中にても源平戰爭の叙事を最上乘と後世より激賞せられける○川田甕江先生は近世の最大文章家なり而して少壯時氏には壯快堂の文を手寫し之を反覆暗誦なしたりと之れ余に親しく語られし所なり○德富蘇峯は一時文を以て一世を風動し人之を德富流の文と云ふ其初め福澤諭吉氏の文体を好み毎朝一文つゝ床の中より讀むこと僧の猶ほ朝の讀經の勤

ゆの如くせられしと以上名ある社會に擧げたる人皆斯くの如し少壯者たるもの此等の演說を反覆丁寧熟讀し、暗記し、翫味したちんには豈に名を一世に顯はさざることを爲からんや

○宗教改革を上帝に祈る

オー全能無窮の神よ、現世は如何に恐るべきものぞ、見よ世は吾等を呑まんとて其口を開けり、顧みれば吾等が信、實に薄し、肉は如何に弱く、惡魔は如何に强きぞ、若し吾等が賴む所、此世の力ならば、事既に〳〵終れるなり、吾等が臨終は最早來れるなり、吾等が處刑は最早宣告せられしなり、オー神よ、此世の智惠に勝ち得るやうに吾等を助けよ、吾等を助け得るは獨り主あるのみ、ソは此業たる吾等のものにあらず、實に主(神)の者なればなり、吾等には此世に爲さんと思ふこと一もなし、吾等此の世の力ある者と戰ふを願はず、只だ世に在るの日を平和と幸福の中に過さんことを望めるのみ、されど是は主(神)の業なり、正しく且つ世々に及ぶべき業なり、ヲー主よ、我を助けよ、信實にして變り給ふことなき神よ、人は何人とても我を信ずる能はず、是れ終に空しかるべければなり、總べて人に屬することは賴みがたく、人に由て成れる事は敗るべし、ヲー神よ、我等の神、主は聽き給はずや、我等の神は死し給ふたるか、否、主は死し給はじ、主は暫く陰れ給ひしよ、主は此事業を我等に任せ給ひしことは我等能く之を知れり、活きて働き給へ、ヲー神よ、愛子

イエスキリストの御爲に我等が傍に立たせ給へ、我等が城、我等が楯、又我等が力なるキリストの御爲に、主よ、主は今何處に在し給ふか、ヲー神は何れの處にか在すべき、來り給へ〳〵、我等は既に覺悟せり、主の眞道の爲に、此の一命を捧げんと覺悟せり、羊の如く耐へ忍びて、汗は正しき主の業なればなり、我等は斷じて主の御手より離れまじ、今も今後も、假令ひ此世は惡魔を以て充たさるとも、假令ひ御手に造られし此体は石の上に引きづられ、寸斷せられ、又燒かれて灰と化すとても、噫、我等の靈は主のもの、我等の靈は主に屬せり、我等の靈は窮りなく主と共に住まん（ルーテル）

演說の秘訣

ブルーハムが曰く雄辯の大家と爲らんには先つ第一着手として自在に演說し得べき習慣を養はざるべからず、之を養ふの方法は朋友相會して談話すること又討論會に入りて頻りに討論を爲すこと等に在り、而して討論を爲すには規則に束縛せらるゝことなかるべし又巧みに言はんと欲せずして好んで言ふを可しとす否、加之、討論に於いては、其の論法を後にして其の材料を先にせざるべからず、我が言はんと欲する所と彼れが言ふべき所とを自在に言ひ得るの術を極めざるべからず是れ雄辯家に取りて最も必要とする所なりと

○僧侶に付ての演說

宗教の眞僞正邪は我輩之を知らず之を知るも之を論ずるを好まず唯だ經世の一点より觀察を下だして外教の蔓延は之を防がざるべから

ず之を防ぐは固より政府に依るべからず獨り學者に頼むべからず、否、之に依頼すべき事柄に非らず、外敎を防ぐは內敎を以てせざるべからず內國固有の宗敎は佛敎なり佛法を以て耶蘇敎を防ぐべしとは諭吉が持論にして此の一事に就て頼むべきは唯だ佛法のみなるに爰に我輩をして大に失望せしめんとするものあり其れは他にあらず今の僧侶全体の風俗是れなり、德川の太平二百七十年の間に寺院の風俗も社會と共に腐敗したるは萬止むを得ざるの勢なれば深く之を咎むるに足らずと雖、維新以後に至りては其の腐敗特に寺院に甚だしきものあるが如し、左に其の次第を述ぶべし、維新の初めに廢佛の議論を聞いて僧侶の狼狽甚し抑も此の議論は新政府に出身したる

皇漢學の書生輩が前年學塾中の夢想を實施せんと試みたるものにして誠に恐るゝに足らず此時に當て僧侶が固く其守る所を守りて動かず嚴護法城の大主義に從ひて怡も武家の籠城するが如く法城を枕にして討死と覺悟を定めたらんには書生輩何事を爲すべきや却て彼等の失策狼狽を來たすべきのみ然るに僧侶の策此に出でずして唯だ恐怖の心を抱き百方周旋して免かれんことを求めたるは敵を見て自ら守るを知らず却て敵に媚びを獻ずるものと謂ふべし又同時に肉食妻帶免許の令あり僧侶は此の命令を拜承して如何の感を爲したるか僧侶に精進するものあり亦然らざる者あるに政府に關するに非ず全く敎法上の事ならん、親鸞聖人が肉食妻帶の敎体を弘めたればとて政

府へ伺届の上にはあらざるべし然るに今日は政府より之を許されて僧侶中一句の議論なきは其の心事のある所を知るべからず我輩固より教法の義を知らざれば亦固より其の肉食妻帯を咎むるにあらざるなり、されど唯だ僧侶の不見識に驚きて佛法の爲に之を悲むのみ、右の如く僧侶の輩は維新の初めに於て廢佛の風聲鶴唳に驚き今日に至るまで恰も放心したる者の如くにして唯だ政府に依賴し世間に侫らんとして遂に寺院を俗了するに至りては誠に嘆息に堪へず、古語に藍は藍より出でし藍よりも青しと云ふことあり我輩は即ち曰く僧侶は俗より出てゝ俗よりも俗なりと妄評には非ざるべし、今の僧侶が頻りに顯門に出入して交りを官途に求め官吏を恐るゝこと鬼神の

如くするは明治初年の放心未だ回復せざるが故なりと雖又一方には此輩が政府に近づき卑劣ながらも威光を借用して寺院を鎮撫し以て一時の安きを買はんと欲するの情なきに非ず故に是等の僧侶は官の鼻息を伺ひ高等なる職を得れば無上の譽と心得るに至る而して數百年來占め得たる榮譽を社會に喪ひたるを意とせざるは俗中の俗極まる者と云ふべし眞宗の兩本願寺の如きは準門跡として殆んど親王宮家に等しきものにて固より諸侯の上に位し本願寺の家來下間等と大名諸侯と結婚する程の權衡なりき又江戸にて芝の大僧正が諸侯の屋敷に來る事あれば大玄關まで駕籠にて乘込む等非常に威權を有せり故に社會人民は彼の御方々こそ人種を異にせしものゝとの信仰即ち

榮譽を博し得たれども一たび出家の身でありながら俗籍定めの官令を甘受し又は官に準ずる教職を詔ひ得しより此等獨占の聲價今安くに在るや夫れ教導職は一種の官員たるものゝ如し既に官員とあれば尋常の官員と相對するときは其の官等の數を算へて尊卑を算定せざるべからず例へば本願寺の舊門主が從何位の位なれば其の官位の數を計へ、書生出身の正何位に對して一等を讓らざるを得ず院家檀林の住職が何講義たれば百姓揚りの何等屬に末席するは當然の事なり今日の僧侶が野爺老婆に對する面目は依然たるにもせよ、苟も官員に接するときは舊時の顏色なし我輩敢は僧侶の落膽を憐みて漫りに之を尊崇せんと云ふには非ざれども唯だ其の政治の區域に籠落せら

れて爲に世に益なきを難ずるのみ、此流は元と政治社外の別乾坤に棲息して自ら其の乾坤中に榮譽を占め世人も亦甘じて之を尊崇したるに一たび政治の區域に引かれてより寺院の全面を汚し甚しきは僧侶にして官途に熱心する者を生ずるに至れり凡そ僧侶風俗の敗壞は古來今日より甚しきものは無かるべし其の條件の枚擧に遑あらざる中に就いて世事に奔走して布教に專一ならず自ら世の識者に厭はれて俗間の信を喪ひ遂に宗教の獨立を謀る意なく一向一心に佛陀を念ずる代りに一向一心に政府を仰ぐの勢ひを成したるは唯に宗門の不幸のみならず世教に關して全國の不利と云ふべし宗派の龍象とも稱すべき人既に斯くの如し之に傚うて名僧以下の輩も其の繁多なる事

實に容易ならず昨日は某の寺院に說敎の法座あり今宵は某の茶屋に商社の集會あり、商賣の組合に失敗するあれば金策の周旋に利益を得るなり彼處に依賴し此處に紹介し賄賂公行、諂諛恥ぢず其の目的は射利の一点にあるのみ、今の僧侶にして口錢を取ると云ひ世話料を落手すと云ふが如きは尋常の談にして其の社會中に怪むべきものなきが如し、加之、朝野の交際には忙はしきを口實に設け其の交際の方便とて花柳に戯れ酒色に恥り醜行見るに堪えず近來僧侶の蓄髮して俗服を穿つもの多きは或は其の羽織の袖を以て是の醜行を掩はんとする策か、諭吉は彼の慈覺大僧正が黑染めの袖を以て浮世の民を掩ひ助けんとの歌は聞きたれども今の僧侶が羽織の袖を以て自身

の醜行を包むに足らざるべしと心配するなり、眞宗の僧侶は半眞半俗精進を修めざる流儀なれば酒色は憚かるに足らずとの遁辭もあらんなれども其の宗祖には深き趣意ありて一流の僧分に妻を娶りて肉を喰ふことを許されたるのみ決して沈湎冒色を勸めたるには非ざるべし俗人なる此の福澤には千百の遁辭は設くとも宗祖をして幽宴に泣かしむる罪は遁るべからざるなり、我輩は固より佛法の眞理を知らず、僧侶を愛するにも非ず、知らざる佛法なれば其の廢滅も憂ふるに足らず愛せざる僧侶なれば其の自恭自樂に任して可なりと雖も唯如何せん經世の点より國權の利害を察すれば我が日本國の國敎たる佛法を保護するより外に方畧あるなし何等の困難を犯すとも之を

保存守護せんとするは我輩の精神なるに、何ぞ圖らん、僧侶の貪利不品行恰も佛門内に佛敵あるが如し實に慨嘆に堪へざるなり、然りと雖も今之を佛敵なりとて唯だ徒らに罵詈し又譴責して其の行ふ所を極むるも之を極了して僧侶を一掃すれば即ち我が佛法を一掃するに異ならず去りとては固より我輩の本意に非す、況んや僧侶不品行なりといふも之を平均して然るのみ全國幾千萬寺院中豈に人物なからんや學識深遠にして豪氣倔強なる先達の高僧智識も甚だ尠からざるに於てをや唯だ今後の要は此の先達の人物が後進の輩を警しめ後進の輩は奮て國家を維持するに在るのみ僧家に望むの切なるより言論、或は敬禮を失せり諸君否な諸智識請ふ之を恕せよ(福澤諭吉)

演說の秘訣

ブルーハムが曰く余が國會に出でゝ演說せしときも將た一般の集會の席に於て演說せしときも其の演說の効驗顯はれ喝采を衆より得しは何れも希臘の演說を豫め大半翻譯して其の精神を吸收したる時に有りき、余が貴族院に於いて皇后の爲に論辯せし際そが準備として最初三四週間はデモスゼニスの演說書を反覆熟讀して少くも二十回以上は之を文章に綴りたりしそは其の妙味を味ひ得て之を記憶せんが爲なり然るに貴族院に出でゝ論辯するに及びて豫想外の好結果を得、世上の喝采は遥に其の實價に超えたりき余是に於て確信す、辯舌自在の習慣を得るまでは豫め草稿を備ふ抔のことなくして不意に演說を試むるを宜しとすれど既に此の習慣を得たる上は丁寧反覆其の草稿を綴るを以て無上の榮とすべし、或は言はん、「斯くの如き」は實に煩累に堪へがたし、而して熟讀玩味し草稿を綴りて後ち演說すると

如何なる準備も整へずして不意に演說を試さるとは其の難易もとより同日の論にあらず然るに易きを捨てゝ難きを取るは何故ぞ」と夫れ或は然れども完全なる演說を試みんと思はゞ是非とも斯くせざるべからず且つ話法を精確ならしめんには斯くすること最も必要なりと

○塾生に告ぐる演說

近來政治上に自治と云ふことあり、自治とは他人の厄介に爲らずして自ら自分を支配するの義にして其の一義は啻に政治上に行はる可きのみならず我が慶應義塾に於ては特に必要を感ずるものあり、人智の未だ進まざる間は國民の自治難しと雖も文明漸進の今日に至れば各地方にてもをの〳〵議會など設けて自ら公共の事を始末せんとする時節に當り德義も智識も國中の最上を以て自ら任ずる學塾に自治の要用にして且その事の行はれ易きは論を俟たずして明かなるべし、例へば本塾の如きも一家塾の次第に發達したるものにして今日と爲りては最早一家の主人にして支配すべきに非ず又實際に於て支配の行き屆くべきにもあらざれば近年漸く組織を改め塾員全体の議に由りて支配することゝ爲し評議員會を以て重要の塾務を議定し又一方には學資募集の事を始めて永年維持の法を謀る等次第に私家の姿を變じて公共の体裁を成さんとするに至りしは之を名づけて塾政の自治と云はざるを得ず、即ち本塾は一個人の私有にあらず塾員の意に任せて處分するてとなれば塾に關する公共の人々が塾と名づく